

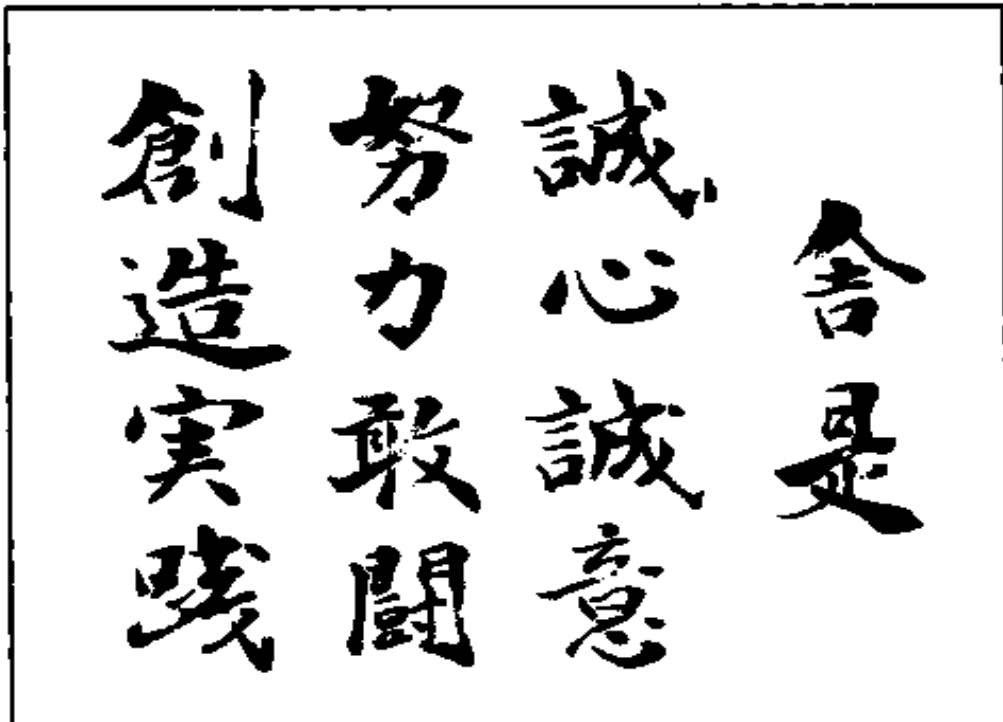
2024年度

経営計画書

社会福祉法人 北海道光生舎

目 次

舎是・経営の原点、経営理念・経営ビジョン	1～	2
組織機構図	3	
各部門のキーワードと重点事項（各施設、授産、管理部門）	4	
「法人経営計画」	5～	10
「財務部経営計画」	11	
「経理部経営計画」	12～	14
「管理部情報システム課経営計画」	15～	17
「総務部経営計画」	18～	19
「本舎施設経営計画」	20～	24
「厚生部経営計画」	25～	28
「グループホームメイプル経営計画」	29～	30
「ホームクリーニング工場経営計画」	31～	32
「赤平リネンサプライ工場経営計画」	33～	34
「ていく経営計画」	35～	37
「そだんのていく経営計画」	38～	40
「きっずていくあかびら経営計画」	41～	42
「きっずていくあしべつ経営計画」	43～	45
「きっずていくさくらんぼ経営計画」	46～	48
「きっずていくたきかわ経営計画」	49～	51
「託児所ぴょんぴょん経営計画」	52～	54
「光生舎メディック・エル経営計画」	55～	57
「グループホーム翠経営計画」	58～	59
「ケアハウスすいこう経営計画」	60～	74
「光生舎虹の里経営計画」	75～	83
「光生舎フーレピラ経営計画」	84～	94
「光生舎クリーン・セブン経営計画」	95～	97
「特別養護老人ホームしらかば荘経営計画」	98～	109
「救護施設親愛の家経営計画」	110～	118
「光生舎プラザ・イン・サッポロ経営計画」	119～	122
「グループホームパル経営計画」	123～	124
「光生舎フロンティア経営計画」	125～	128
「光生舎ゆいま～る・もみじ台経営計画」	129～	136
「光生舎スクエア経営計画」	137～	140
「グループホームピノ経営計画」	141～	142
「そだんのていく札幌エリア、企画室 KITE 経営計画」	143～	144



経営の原点

- ◆日々、己に問え「今日一日、誠心誠意、仕事に励んだか」立派な舎員とは、真心一途に働く人である。
- ◆日々、己に問え「今日一日、精一杯、努力敢闘したと言い切れるか」企業は、真の努力人間が集まってこそ、勝者になれる。
- ◆日々、己に問え「今日一日、創造実践の舎是に悖ることなかりしか」舎の未来「明日をひらく」のは良い着眼と、緻密な計画と、それを確実に実行する能力である。

経営理念

わたしたちは、「働く喜び」「誇りある人生」「きれいと快適」を追求し、地域社会に貢献します。

1 働く喜びを

わたしたちは、利用者・職員共に全員がいきいきと活躍することができる職場づくりを続けます。

2 誇りある人生を

わたしたちは、法人に関わる一人ひとりの個性を尊重し、皆が充実して誇りある人生を送ることを目指します。

3 きれいと快適を

わたしたちは、職場においてきれいと安全を徹底すると共に、お客様に清潔で快適な環境を提供します。

以上の経営理念を実現するため、常に革新的経営の実践に努め、事業を発展させ、地域福祉と社会に貢献します。

経営ビジョン

『100年続く社会福祉法人へ』

福祉と企業経営の融合による進取果敢な取り組みで、障がい者就労支援のトップリーダーとして走り続けます。

常に専門性の向上に努め、一人ひとりに寄り添い、個別ニーズを叶えるための支援を提供します。

地域の人たちと協力し合い、地域共生社会の中心的役割を担います。

令和6年度 各部門のキーワードと重点事項

社会福祉法人 北海道光生舎

令和6年1月11日

令和6年度の方針 施設キーワード『この施設で働いて良かったという職場にしよう』
～各員の幸せなくして利用者の幸せはない～
工場キーワード『この工場で働いて良かったという職場にしよう』

法人の重点事項 仕事自律性を促進する… ミッションに基づいた目標を設定し、自分でペースや解決方法を考え目標を達成する組織的に支援する。 ※（知覚された組織支援）で長期「成長型」でメンバーの成長を促す。 「会社（組織）から見守られている」と感じられるように配慮する。 深層のダイバーシティを活かす… 真実性を価値あるもの、尊重すべきものであるという規範を醸成する。



経営理念

わたしたちは、「働く喜び」「誇りある人生」「きらいと仲間」を追求し、福祉社会に貢献します。

- 働く喜びを**、利用者・職員に会社員が、いきいきと活躍することのできる職場づくりを創ります。
- 誇りある人生を**、利用者・職員に、人としての個性を尊重し、自分たちが、自分がある人生を送ることを目指します。
- きらいと仲間を**、職場において、きらいと友愛を徹底すると共に、お客様に清潔で快適な環境を提供します。

以上の経営理念を表現するため、常に革新的精神の発露に努め、事業を推進させ、地域福祉と社会に貢献します。

●経理部の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. コロナによる財政状態のダメージの回復
2. 経理の透明性の向上
3. 法人の経理体制の強化
4. 経理体制の強化
5. 経理体制の強化

●リネン工場の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化
4. 関係の強化

●メテック・エルの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●グリーン・セブンの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●フロントアの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●経理部の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●不審車の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●ブルーフォードの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●しらね荘の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●ゆいぽ〜・もみじの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●情報システム課の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●養生部の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●すいとんの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●健康の家の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●スクエアの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●事務部の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●グループホームメイブルの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●虹の星の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●プラーザ・イン・サッポロの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●グループホームビの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●ホーム工場の取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●ていくの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●フーレピアの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●グループホームVの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

●全園型K I T Eの取組

キーワード
「関係」

重点事項
1. 関係の強化
2. 関係の強化
3. 関係の強化

「法人経営計画」

【法人キーワード】

施設『 この施設で働いていて良かったという職場にしよう 』

～舎員の幸せなくして利用者の幸せはない～

工場『 この工場で働いて良かったという職場にしよう 』

令和6年度のキーワードを施設は「この施設で働いていてよかったという職場にしよう」とし、工場は「この職場で働いてよかったという職場にしよう」とした。昨年までは「この施設にいてよかったという施設にしよう」であり、利用者第一を考えて貰いたいという事にしていた。そして今年もキーワードは同じであるが、副題として「舎員の幸せなくして利用者の幸せはない」という事にした。それをもっと押し進めて、利用者第一ではなく、働く職員並びに舎員第一という事に変更したという事である。今年のキーワードの副題のように利用者の支援や介護をする職員が幸せでなければ、満足のいく利用者の介護や支援が出来ないと考えている。

そして必ず今後起こる事実が、圧倒的な人手不足である。北海道の過疎地域の施設では職員が不足してベッド数を縮小している施設が増えている。当然赤平市や歌志内市は過疎地であり、現在でも人手不足である。それがもっと加速する。施設では外国人人材の受け入れを進めているが、それも限度がある。

更に来年度4月から運輸や建設、介護などの残業規制が強化される。これはさらなる人材不足を加速する。そうなったときに、現在働いている人をトコトン大切に、辞める人を減らさなければ入ってくる人がいなくなるという事である。当然経営側として福利厚生や処遇については出来るだけの事を考えるが、一番重要なのはその職場内の人間関係である。福祉職場は今でも辞める人や入ってくる人が多い流動性の高い職場である。しかし入ってくる人がいなくなれば、辞める人を無くしていかななくては経営の維持は出来ない。

【法人重点事項】

光生舎は優秀な人材の採用と育成を意識的に行ってきた。

次に必要になるのは、活躍する舞台の提供である。

組織全体を良くするには、それぞれの職場が持つ組織力を向上させること。

多くの組織で、理念や価値観が最終的に腑に落ちるのは、職場での一言、二言を通じてのことが多い。組織を構成するすべての部門が働きやすく、働きがいのある職場をつくるために、それぞれに合った活躍の場や役割の提供がその前提となる。

その観点から、以下の三項目を重点事項とする。

仕事自律性を促進する

ミッションに基づいた目標を設定し、自分でペースや解決方法を考え目標を達成する

—「達成感」と「成長感」でモチベーションを高める—

組織的に支援する ※（知覚された組織支援）

「会社（組織）から見守られている」と感じられるように配慮する

深層のダイバーシティを活かす

異質性を価値あるもの、尊重すべきものであるという規範を醸成する

※ 知覚された組織支援 Perceived Organizational Support (POS)

組織が自分の貢献をどれくらい価値あるものとして評価しており、自分の Well-being をどのくらい気にかけているのかについて、個人が形成している包括的な信念

Positive

- 1 私が所属する組織は、私が自分の能力を最大限に発揮して仕事ができるように、積極的に支援してくれる
- 2 私が所属する組織は、私の意見を大切にしてくれる
- 3 私の組織は、私のウェルビーイング（仕事を通じて快適、健康、幸せであると感じている状態）を、本当に大切にしてくれる
- 4 私が所属する組織は、私が全般的に仕事に満足しているか気にかけてくれる

Negative

- 1 たとえ私が最高の仕事をしたとしても、私が所属する組織はそのことに気づかない
- 2 私が所属する組織は、私の利益に対してほとんど関心を示してくれない
- 3 私が所属する組織は、私に影響が及ぶ決定を下す際に、私の一番の関心事を考慮してくれない
- 4 私が所属する組織は、私が求められている以上に努力しても評価してくれない

【法人重点項目】

1. 収益改善
 - (1) 就労支援事業の将来を見据えた計画の策定
 - (2) 不採算部門の抜本的改革
2. 教育・研修体制の構築および推進
 - (1) 法人による教育・研修体制の更なる発展
 - (2) 各事業所における教育・研修体制の構築
3. 人財採用・定着
 - (1) 働きやすい職場づくりの実践
 - (2) 働きがいのある職場づくりの推進
 - (3) 外国人を含めた計画的採用活動の促進
4. 確かな品質の追求
 - (1) 施設：利用者に満足して頂ける高水準のサービス提供
 - (2) 工場：工程管理体制構築による品質安定
5. 利用者確保
 - (1) 新規利用者獲得営業活動の更なる推進
6. ICTの活用
 - (1) 法人内の作業効率・質の向上のためのICT活用の推進
 - (2) データ活用体制の促進
7. 障がい者の一般就労・施設外就労
 - (1) 障害者就労先および施設外就労先の開拓および定着活動の実践
8. 地域共生社会実現に向けた活動
 - (1) 地域共生社会実現に向けた活動の実践
 - (2) 地域への公益的取組の促進

【理事会・評議員会】

当法人は「北海道光生舎定款」、「理事会運営規程」及び「評議員会運営規程」等の規程に基づき、理事会並びに評議員会の適正な運営に努めることとしている。

令和6年度は、定時評議員会を1回、理事会を年5回開催する予定とし、その他に審議・決議が必要な議案が発生した場合には、随時開催する。なお、建設工事請負や物品購入等に係る施設設備整備については、「経理規程」に基づき、購入予算金額が基準金額を超える事業案件の実施について理事会にて決議する。

定時監事監査は6月に開催し、その他随時実施する。

〈開催予定月と予定議案等〉

開催月	理事会 評議員会	主な予定議案
6月	理事会	令和5年度事業報告及び計算書類並びに財産目録について 評議員会の日時及び場所並びに議題・議案の決定について 定例報告 ほか
6月	評議員会	令和5年度事業報告及び計算書類並びに財産目録の承認について 定例報告 ほか
9月	理事会	理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告 定例報告 ほか
11月	理事会	上半期事業実績状況報告について 定例報告 ほか
1月	理事会	定例報告 ほか
3月	理事会	決算見込(報告)と新年度経営計画及び収支予算の承認について 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告 定例報告 ほか

※施設設備整備計画は、随時審議

※その他、定款及び理事会運営規程、評議員会運営規程に定める事項

※定例報告：理事長・副理事長・常務理事・担当理事の職務執行状況報告、
事業実績及び資金繰り、運営状況報告ほか

【委員会活動】

委員会名	赤平圏	札幌圏	備考
リスクマネジメントおよび コンプライアンス推進委員会		○	必要に応じて所長会議内で開催
防災対策・感染予防委員会	○	○	火災予防、交通安全、健康管理・ 増進含む
広報(HP)委員会		○	舎内報作成、HP更新
虐待・身体拘束防止委員会	○	○	
ヒヤリハット委員会		○	事故再発防止含む
5S推進委員会	○	○	
研修プログラム委員会		○	ホスピタリティ研修、 職員研修会企画・運営
労働安全衛生委員会		○	安全管理、長時間労働抑制
地域貢献推進委員会		○	公益的取組の推進

※法人委員会の取り組みを通して各事業所内委員会の活動を活性化させる

【定例会議】

会議名	実施頻度	役割・内容
所長会議	月1回	法人内における重要事項の検討・決議
厚生会議	月1回	利用者支援に関わる報告・検討
給食会議	月1回	食事提供に関わる報告・検討
経営報告会	月1回	各施設・工場からの経営状況報告
工場長会議	月1回	工場体制の改善を目的とした会議
幹部会	月6～7回	法人内情報共有および協議・勉強の場
D幹部会	月2回	次席の法人内情報共有および勉強の場

【実務者会議】

会議名	赤平圏	札幌圏	備考
採用WT会議	○		10月～9月任期
入所検討会議	○		新規受入・移動検討
新規利用者獲得会議	○		利用者獲得PR活動関係

【教育・研修】

研修名	期間	研修名	期間
管理者養成研修	4月～3月	中途採用者研修	7月～12月
工場No.2研修	4月～6月	ホスピタリティ(伝達)研修	11月
サンキュウ研修	5月～10月	職員研修会	3月
能力向上研修	4月～3月		

※上記の他必要に応じて随時教育・研修を実施する

「財務部経営計画」

〈基本目的〉

1. 財務状況の安定化と信頼を得るための健全化
2. 将来を見据えた財務計画と資金運用
3. 事業に必要な資金の調達と返済

〈基本方針〉

1. 経常利益率は、売上の3%以上
(令和5年度見込み 売上 6,540,205千円
経常増減差額 99,476千円 利益率1.5%)
2. 自己資本比率40%以上 (令和6年2月：33.9%)
3. 流動比率150%以上 (令和6年2月：127.1%)

〈キーワード〉

『復活』

〈重点事項〉

1. コロナによる財務基盤のダメージの回復
2. 今後5か年は多額の投資は行わない(令和3年度より)
3. 法人の経常増減差額を黒字化する
4. 投資効果の確認と確実な資金回収
5. 低利での資金調達に努める

〈実施事項〉

1. 資金管理
 - (1)銀行借り入れ及び割賦リースによる資金調達
 - (2)調達した資金の運用管理
 - (3)資金繰り予定と実績管理
2. 銀行などの金融機関や格付け機関への対応
3. 財務管理(財務計画・財務統制・投資活動の修正)
4. 先行管理で安定したキャッシュフローを図る
5. 設備投資に対して財務視点による経営層への助言

「経理部経営計画」

〈基本目的〉

1. 法令、規範を順守し、明瞭で透明な経営を支える
2. 経営状況を正確に把握し、的確な経営判断をするための情報を提供する
3. 正確でかつスピードある行動で舎内および取引先との信頼関係を構築する

〈基本方針〉

1. 根拠に基づき正しいことを考え行動する
2. 経営判断するデータは柔軟性を持って作成し提供する
3. 仕事での喜び、悩みは全員で共有し感謝の気持ちを言葉にする
4. 課題には質の向上で取組み、小さな見直しを大事にする

〈キーワード〉

『つなぐ、つながる、つなげる』

- 現場活動のモノ、お金の動きと伝票処理が必ず対応するように「つなぐ」
- 数字データを判断する価値ある情報に加工して提供することで「つながる」
- 正しい判断を積み重ね考えて行動に「つなげる」

〈重点事項〉

1. 業務の標準化
活用するマニュアルを作成し、一人しかわからないことをなくす。業務フローを考えることで知らないことを理解する。
2. 対応品質の向上
認め合う職場風土の土台をつくる。相手の立場を理解してできることを見つける。

現場活動と共有できる資料・情報の発信をする。

〈重点事項の詳細〉

1. 業務の標準化

(1) 会計業務マニュアルの作成

- ① 会計業務分類表の作成
- ② 会計伝票チェックによる分類
- ③ 業務フローチャートの作成
- ④ マニュアル作成

(2) 月次決算マニュアルの更新

- ① 見直し会議にて検討して改善する

2. 対応品質の向上

(1) セルフチェック表を作成し運用する

- ① 大項目の洗い出しと決定
- ② 小項目の洗い出しと決定
- ③ マトリックス検討によるテスト運用
- ④ 課題抽出と解決具体化
- ⑤ 検証と項目の見直し

(2) 共通フォーマットの作成と配信

- ① 施設給付費報告書
- ② 健康診断・インフルエンザ報告書
- ③ 行事（仮払い）報告書

3. 業務計画

(1) 決算業務

- ① 会計士監査
- ② 月次決算
- ③ 年度決算
- ④ ダイアパーリース決算

(2) 予算業務

- ① 当初予算の策定
- ② 更正予算の策定
- ③ 資金収支予算の策定

(3) 会計出納業務

- ①施設小口現金の確認、実査
- ②利用者預り金・貴重品管理
- ③請求支払処理

(4) 資産管理業務

- ①会計システムと減価償却システムへの登録
- ②償却資産申告書作成
- ③保険金請求・契約

5. 環境整備

(1) 書類整理

6. 部門連携

(1) 法人・本舎施設委員会活動

- ①防災対策感染予防委員会
- ②虐待身体拘束防止委員会
- ③5S推進委員会
- ④地域貢献推進委員会

(2) 事務所活動委員会

- ①カイゼン活動委員会
- ②セルフチェック委員会
- ③5S推進委員会

(3) 本舎施設との連携

- ①リネン繁忙期応援
- ②行事の引率

7. 研修計画

- ①PL研修への参加
- ②外部主催の経理関係セミナーの参加
- ③社会福祉主事任用資格の取得

「情報システム課経営計画」

〈基本目的〉

1. IT化を推進し、業務の効率アップを図る
2. IT戦略、システム企画の提案をし実施する
3. システム、IT機器の保守・運用・更新を行い、安定した作業環境を提供する

〈基本方針〉

1. ICT推進チームと連携し、効果的なシステムを導入する
2. K.K.情報システム課と連携し、システムの構築、再編成を行う
3. システムの保守・運用支援を行い、問合せ、トラブルに対して迅速な対応を実施する

〈キーワード〉

『 ICTによる省力化、作業効率アップ 』

〈重点事項〉

1. ICT推進、インフラ整備
2. パソコンのWindows11へ移行促進
3. サポート体制の充実

〈実施事項〉

1. ICT推進
 - (1) インフラ整備
 - ① 舎内無線LAN環境の整備
 - (2) ICT推進WTと連携し、機器やシステムの検討、導入
 - ① 舎タブレット、スマホ等の情報通信端末の検討
 - ② システム、アプリの調査、選定
2. コンピュータ関連機器の設定
 - (1) Windows11パソコンへの移行
 - ① 入替対象パソコンの調査、選定
 - ② パソコンの順次入替
 - ③ Windows11へのアップグレード

- (2) パソコンのセットアップ、設定変更、再インストール
- (3) iPadのセットアップ、設定
- (4) その他IT関連機器の設定

3. IT関連のサポート

- (1) 問合せ、トラブル対応
- (2) 運用支援
- (3) Q&A表の更新、共有
- (4) 業務改善に繋がる情報の発信

4. リスク管理、セキュリティの強化

- (1) サーバ、業務システムのバックアップ
- (2) サーバ、パソコンのWindows Update
- (3) セキュリティに関する取組と情報提供
- (4) セキュリティ機器の運用管理

5. グループウェアeValue、データの有効活用

- (1) 文書管理システム、ワークフローの活用推進
- (2) 電子帳簿保存法対応文書管理システムの運用
- (3) eValue、共有フォルダの保守運用

6. 新システムの構築、移行

- (1) ホームクリーニングシステムの構築
 - ①毛皮、皮革台帳管理
 - ②修理台帳管理
 - ③和服台帳管理
 - ④高級洋服台帳管理
- (2) K.K.情報システム課との連携
- (3) 既存システムの現状把握、解析
- (4) 光生舎システム開発ソフト導入
 - ①プログラミング技術習得
 - ②システム変更対応

7. 業務システムの保守、運用支援

- (1) ほのぼの福祉業務支援システム
 - ①バージョンアップ
 - ②給付費請求データ作成

- (2) MJS人事・給与、財務会計システム
 - ①バージョンアップ
 - ②データ取込、連携
- (3) MJS税務システム
 - ①バージョンアップ
- (4) クロノス勤怠管理システム
 - ①バージョンアップ
 - ②データ取込、連携
 - ③クロッションとの連携
- (5) 電子契約ドキュサイン
 - ①保守運用

8. Web会議の充実

- (1) WebEX、Zoomを活用したオンライン会議の推進

「総務部経営計画」

〈基本目的〉

1. 法人内の総てをつなぐ架け橋となる
2. 誰もが働きやすい環境を提供する
3. 中立・公正性を堅持する

〈基本方針〉

1. 双方向のコミュニケーションで組織力を強化する
2. 従業員満足度の向上を目指す

〈キーワード〉

『 自律と協働でチーム力を強化する 』

〈重点事項〉

1. 働きやすい環境作り
2. 人事管理体制の強化
3. データ活用の土台整備

〈具体的取り組み〉

1. 働きやすい環境作り
法改正や社会環境・経営環境の変化に合わせて規程規則を見直し、従業員の「働きやすさ、やりがい」に繋がる制度を積極的に提案する。
 - (1) 規程、就業規則の見直し
 - ①福利厚生制度
 - ②既存規程・就業規則
 - (2) 働き方・休み方改善ポータルサイトの活用
 - (3) 情報公開による透明性の向上
 - ①評価制度の実態調査
 - ②評価制度の見直し検討（パート含む）
 - (4) 相談窓口の利用促進
 - (5) アルムナイ制度導入検討
 - (6) 総務部の働き方の見直し
 - ①連休取得を実現する業務体制
 - ②属人化を解消するサブ担当者設定
 - ③認め合う職場作りの醸成

2. 人事管理体制の強化

人材採用・定着の仕組みを拡充させるとともに、教育・研修を人事課で所管し一貫性のある継続的な活動をリードする。

(1) 定着率向上に向けた取り組み

① 中途採用者向け希望面談の導入

② 退職者の職場復帰に向けた支援

(2) 法人内研修の体系化

① 基本プログラムによる運用と実施結果の検証

・新入舎員研修

・サンキュウ研修

・クロストレーニング制度

3. データ活用の土台整備

総務所管情報の活用度を向上させるために、データ活用の基盤を構築し、求められる情報を即座に提供できる体制を整える。

(1) 情報の3S

① 総務部共有フォルダ

(2) 分析シート作成

① 働き方・休み方改善指標

4. 部内研修の実施

外部研修への参加、伝達研修、部内研修を実施し、総務業務及び施設職員としての知識・スキル・質の向上を目指す。

(1) 外部研修への参加・伝達

(2) テーマ別研修

「本舎施設経営計画」

〈基本理念〉

本舎施設は、「先進的」「創造的」な運営で利用者の意向を尊重し、「働く・くらす」をより豊かにするために、総合的な福祉サービスを提供する。

〈基本目的〉

1. 利用者が安全に安心して生活できる支援を行う。
2. 利用者個々の状態や意向に合った働く場の提供・支援を行う。
3. 「生きがい」・「やりがい」・「楽しみ」を共にする

〈基本方針〉

1. 常に「利用者のためになるか」を考えた支援を行う。
2. 本舎各部が協力・連携し、一体となった支援体制を推進する。
3. 利用者・職員皆が活躍できる職場環境を構築する。

〈キーワード〉

『みんなちがって、それもいい』

〈重点事項〉

1. 利用者確保活動の強化
2. みんなが活躍できる環境作り

〈実施事項〉

1. 運営会議による活動
「利用者確保」「利用者支援」「働きやすい職場作り」「行事余暇活動」に関する運営会議を組織し、利用者サービスの充実と職員の質の向上を目指した活動を行う。

(1)利用者確保活動の推進強化

本舎施設の利用者を増員するために中途利用、新卒者確保のために活動を行う。

①高等養護学校との連携強化

- ・積極的に実習生受け入れ実施。

- 実習受入れ、実習期間中のプログラム化
(1日8時間の受け入れではなく徐々に時間を延ばす等)
- 父母や教員等の研修や見学受け入れ企画の提案・活動
- 養護学校生徒へのPR授業への参加
- ②ハローワークへの訪問及びPR活動
- ③相談支援事業所とのPR活動と連携
- ④体験利用、実習方法についての検討と利用内容のプログラム化

(2)利用者支援活動

①日常生活支援の向上

厚生部が中心となり取り組み、各部と連携を行いながら利用者が満足するサービスの提供を行う。

- 個別支援計画
みんなでと〜くの検証と改善
利用者本人に合わせた計画作り
レーダーチャートの見直し
- スマホ使用者への支援
課金、買い物へ使用、SNSへの課題解決。
スマホ高額利用者への確認、対応。
- 金銭管理
GH利用者について工賃自己管理への推進
週間小遣いから月間小遣いへの移行

②作業能力の向上

各部が協力して利用者の能力開発を推進しスキルアップを目指す。

- 高齢化、体力低下、精神的等に配慮した作業環境の整備
- 個別の作業日誌の記録方法の見直し
- 施設外就労岡田水産の人数7名を目標とする
- 一般企業就労へ2名を目標とする
- B型からA型への移行者会議を設置し、毎年10月に移行者の確認を行い利用者のステップアップにつなげる
(ホーム工場、リネン工場、厚生部による会議)
- ライトプラザ、エルムソーイングのA型定員について、利用状況を加味しながら10名から15名への定員変更

(3)働きやすい職場作り活動

①働きやすい職場環境の構築

- ありがとうカード等を取り入れ、職員や利用者への感謝の気持ちを伝えあう。利用者については掲示やカードを送るなどの方法を考慮し推進する
- 各部の懇親を含めた活動の実施(各部予算化)
- 年6日以上の有給取得を推進し、長期休養を活用した自身のリフレッシュや家族サービス等の推進を図る。
(職場の仕事状況を勘案し計画的に行う)
- 各部門(ホーム、リネン、事務所、厚生部)が実施している活動内容の報告や確認をしながら推進に役立て行く

②職員勉強会の開催

- 勉強会開催内容を立案し施設職員の質の向上をめざした活動を行う。(施設運営、制度の内容、介護支援、相談技術的面、外部講師、WEB等)
- 講習の他に、グループワーク等を取り入れ意見交換の活発化させる。

(4)行事・余暇活動

- ①利用者が主体となり、生きがいや楽しめる行事を企画、実施する。

実施月	内 容	金 額	備 考
4月	映画鑑賞会(リネン工場)	5,000円	利用者主体行事
6月	プロ野球観戦	100,000円	利用者希望行事
7月	空知知的ソフトボール大会 光生舎夏まつり250×4,000円	50,000円 1,000,000円	スポーツ大会 施設行事
9月	空知知的パークゴルフ大会	70,000円	スポーツ大会
10月	空知知的卓球大会	30,000円	スポーツ大会
11月	ボウリング大会 サッカー観戦	150,000円 100,000円	利用者主体行事 利用者希望行事
12月	赤い羽根ティーボール大会 クリスマス会7,000×200名	60,000円 1,400,000円	スポーツ大会 施設行事
1月	ゲーム大会	20,000円	利用者主体行事
2月	バスケット観戦 映画鑑賞会(ホーム工場)	100,000円 5,000円	利用者希望行事 利用者主体行事
	小 計	3,090,000円	
	利用者個別対応行事 3,000×200名	600,000円	利用者主体行事
	厚生旅行15,000×200名 (利用者・職員分・日帰り旅行)	3,000,000円	ホーム工場5月 リネン工場11月
	合 計	6,690,000円	

※利用者主体行事は利用者が関わって立案し費用(利用者、職員分)は行事費にて実施
※利用者希望行事の利用者費用は自費負担にて参加。職員分は舎負担。
※厚生旅行については職員、利用者の費用を予算とする。貸出

②趣味的な活動

- ・習字、絵画、スキー、写真、料理など小グループによる個別行事や同好会活動を企画する。(小旅行やドライブ等は除外する)

2. 施設内委員会活動

(1)感染予防・防災対策委員会

①感染予防

- ・ノロウイルスシュミレーション実施
- ・手洗い講習
- ・BCPの内容に基づいた訓練の実施

②防災対策

- ・定期的な火災訓練と自然災害訓練の実施
- ・備蓄品の管理と備蓄品を使用した訓練の実施
(消費期限切れ入れ買い活用と補充)
- ・BCPの内容に基づいた訓練の実施
- ・防災勉強会実施

(2)虐待・身体拘束防止委員会

- ・セルフチェックによる自己確認。チェック内容の分析による部門内活動の推進(月1回)
- ・虐待・権利擁護に関わる勉強会の実施
- ・虐待防止啓蒙活動
- ・虐待通報対応マニュアル確認

(3)ヒヤリハット委員会

- ・危険発見活動、ヒヤリハット活動の強化
- ・事故報告の徹底と検証、安全対策、業務見直し等の推進
- ・服薬動画マニュアル活用

3. 施設運営

運営基準に沿った配置・書類・設備を点検する。

- ・監査書類の整備

- 適正配置、適正人員の確保
- 施設基準項目・加算項目の管理
- 施設基準内容勉強会
- 監査対応を熟知した職員の育成

「厚生部経営計画」

〈基本理念〉

支援・介護サービス、事務業務について、内容が適切であるかどうかを検証し、日々の利用者ニーズや制度に合わせた内容に変化させ、利用者支援の充実化を目指す。

〈基本目的〉

個別の状況に合わせた総合的な支援を実施する。

〈基本方針〉

1. 利用者の意向を踏まえ、本人のためになるかを考え支援する。
2. 部内オープンで協力・連携をする。
3. 計画に基づいた一体的な支援をする。

〈キーワード〉

『先見の明 ～先を見据える～』

〈重点事項〉

1. 一人ひとりに合わせた支援
2. 暮らしやすく、働きやすい環境の提供
3. 利用者確保の活動

〈具体的支援の詳細〉

1. 一人ひとりに合わせた支援
【目的】利用者のニーズに合わせた計画の立案、支援の実施と充実化
(1) 希望実現のための個別支援計画
【取り組み内容】
 - ①レーダーチャート(生活面)の見直しと本人の状況に合わせた計画の立案
 - ②みんなでと〜くの内容の検証と改善
(2) 日常生活向上への取り組み
【取り組み内容】
 - ①自立へ向けた基本を身につける
 - ・寮でのルール、集団生活でのマナーの習得
 - ・整容、入浴、居室内の清掃(整理、整頓)への支援

- ②スマホの適正な利用・勉強会開催(課金、購入、SNS等)
 - ・スマホ高額利用者への相談支援と収支状況確認、助言等具体的な対応の実施
- ③工賃自己管理の(GHと連携した)支援
- ④作業に行かない利用者への新たな活動の模索
- ⑤相談対応(課題解決、各職場との情報共有と連携)

2. 快適な生活環境の提供

【目的】利用者の「暮らし」が継続できるサービスの提供

【取り組み内容】

(1) クリーナース

- ①利用者の自立心、尊厳を尊重した個別支援の実施
- ②障害種別や病状・高齢化等による、利用者の共同生活上の問題点の確認と、対応方法の検討。

(2) ワークショップ

- ①介護サービスの向上と技術の取得
- ②高齢化、精神病状による個別の内容検証と、支援方法についての検討・実施。
- ③身体能力低下の防止活動
 - ・創作活動による筋力低下の機会を提供
 - ・リハビリや嚥下体操の実施
 - ・口腔ケア充実化による誤嚥、肺炎防止
- ④介護、看護、栄養士による利用者の生活上の問題点の確認、ワーク支援会議の定期実施と対応方法の検討。
- ⑤入浴機器の導入(補助金申請の活用)
 - ・入浴方法の改善

(3) エルム・ソーイング

- ①居室整理・整頓、清掃の基準作り
- ②KITEと連携した、出勤が難しい利用者への支援方法の検討、実施
- ③月に1回の利用者集会の実施
- ④宿日直者の業務見直し

(4) 看護支援

- ①月1回看護師ミーティングの開催
- ②糖尿・高脂血症者の栄養指導(栄養士も含む)/勉強会
- ③感染症への対応と勉強会の開催(年2回)

- ④新規看護師採用活動の実施
- (5) 食事提供
 - ①月1回の給食委員会開催。
 - ・利用者、多職種の意見を取り入れた食事の考案。
 - ・利用者の病状や嚥下状況等の確認と対応。
 - ②年1回の嗜好調査を実施。
 - ・利用者の好みを把握し、食事提供に活かす。
 - ③豊かな会食を実施。
 - ・新たな内容を検討し、食に対する楽しみを増やす。

(6) 厚生部職場環境の整備

- ①新規職員の育成
 - 担当エルダーによる研修実施(3カ月間)
 - 上司による進捗状況の確認、面談
 - 年間育成計画の作成とそれに基づいた活動
- ②快適な職場づくり
 - ・年6日以上の有給取得を推進
(長期休暇、リフレッシュ休暇、家族サービス等)
 - ・定期的な懇親を深める活動の検討と実施
(年間1名5千円)
- ③すまいるレポート
 - ・WTを設置し活動を実施
 - ・件数アップに向けた検討と取り組み
 - ・ありがとうカードの配布継続
 - ・認め合う職場づくり運動の検討と取り組み
- ④会議体系の再検討
 - ・参加者、体系の見直し
- ⑤寮母業務の変更
 - ・3施設へ固定化を行い、清掃業務だけではなく利用者対応を含めた体制を構築する
 - ・年間スケジュールにのっとった強化清掃の実施
 - ・清掃用具の見直し
 - ・各寮の寝具見直し
- ⑥3Sの取り組み
 - ・月に1回の3S巡視の実施
 - ・各物品庫の整理整頓
- ⑦カイゼン提案活動の活発化
 - ・毎月のカイゼン提案の評価と活動の強化

(7) 職員勉強会開催

- ①年間計画を作成し月1回実施する
- ②担当者を割り当て、各回2~3人組で内容を作成
- ③職員の資質向上に関わる内容とし、部内全体のスキルアップにつなげる。(障害、病状、薬の効能、請求・加算内容の理解等)

(8) ICTの導入の検討

- ①利用者の利便性の向上、職員の負担軽減につなげるICTを検討、推進する。

(9) 事故・虐待への取り組み

- ①ヒヤリハットミーティング開催
 - ・ヒヤリハット件数アップへ取り組み
 - ・事故報告書の提出・報告・検証
 - ・検証内容を周知化
 - ・緊急ヒヤリハットの開催による早期対応
 - ・危険発見活動

- ②虐待への取り組み

- ・セルフチェックの実施
- ・チェックリストの分析と検証
- ・検証による防止活動や周知化できる仕組み作り

〈年間スケジュール〉

4月	新規利用者受入	10月	訪問販売
5月	GW 帰省	11月	経営計画策定 テニール同好会
6月	収入申告提出 訪問販売	12月	予算策定 正月帰省
7月	ソフトボール同好会	1月	利用者移動の確認
8月	盆休帰省 パークゴルフ同好会	2月	サービス変更確認、手続き
9月	卓球同好会	3月	体制届提出 利用者引越し

「グループホームメイプル経営計画」

〈基本目的〉

利用者が自立した社会生活を送るための支援を行う

〈基本方針〉

1. 利用者が安全に安心して暮らせる住まいの場とする
2. 利用者が自分で決めることを増やし、出来るように支援をする
3. 利用者の個性を尊重し、共同生活・社会のルールを学べる支援をする

〈キーワード〉

『 やりがいとあんしん ～つぎの一步へ～ 』

〈重点事項〉

1. 支援体制の確立
2. GHから地域生活への移行支援
3. ニーズへの多様な取り組み

〈重点事項の詳細〉

1. 支援体制の確立
 - (1)生活状況や支援方法の共有
 - ①世話人業務会議
 - ②世話人を含めた職場、厚生部との情報共有の場を検討
 - ③業務内容のルール決め
 - (2)生活支援員による各GHの巡回支援継続
 - ①利用者の整容面での支援強化
 - ②利用者も居室の清掃状況が確認出来る基準作り
 - (3)設備や備品をリストアップし更新や老朽化の修繕を計画的に行う
 - (4)世話人業務の見直し(勤務時間、食事提供など)
 - (5)錦町、若木町の管理体制をとる為の準備
 - ①支援員1名を増員し、4名体制
 - (6)本舎委員会と連携し、継続した内部活動を行う
 - ①3S活動
 - ②虐待・身体拘束防止活動
 - ③防災・感染予防活動

- ④ヒヤリハット・危険発見活動
- (7)厚生部と連携した個別支援計画の策定
- (8)共益費の値上げ実施(2,500円/月)

2. GHから一般住居生活への移行支援

- (1)希望する利用者への移行支援プログラムの見直しと運用
- (2)作業工賃の自己管理化への支援
 - ①支出と収入のシミュレーションの理解促進
 - ②収支バランスを欠く利用者への支援

3. ニーズへの多様な取り組み

- (1)GH 移行予定利用者の体験入居を実施
- (2)利用者自治体の設立
(掃除当番、除雪、行事、地域活動の参加)
- (3)公共交通機関を使った移動への支援
- (4)栄養士、業者と食事についての検討の場を持つ
- (5)世話人、利用者主体の余暇活動(予算 1万円)
- (6)寝具洗いの体制構築

4. 研修計画

- (1)虐待・身体拘束防止研修
- (2)世話人向けの勉強会実施(毎月)
- (3)世話人参加型の消防訓練実施

「ホームクリーニング工場経営計画」

〈基本目的〉

1. 働く人に、安心・安全な職場を提供する
2. ホームクリーニングの技術習得への職業支援をする
3. 時代のニーズに合わせ、専門的な知識と技術によるホームクリーニングを行う

〈基本方針〉

1. 働く人の目線に立って、危険個所の改善に努める
2. 利用者ひとりひとりに合った作業と、適切な職場配置を提供する
3. 知識の習得と技術の継承の機会を設ける
4. 時代の変化を捉えた商品を開発し提供し続ける
5. 日々の喜びや苦勞を分かち合える職場環境の形成に努める

〈キーワード〉

『 整える。 ころろ to からだ to みんなのしょくば 』

〈重点事項〉

1. 変化に合わせた工場への作り替え
2. 経費削減
3. 働きやすい職場環境の整備

〈具体的取組〉

1. 変化に合わせた工場への作り替え
 - (1)生産体制の見直しとレイアウト変更
 - ①ユニフォーム部門生産体制強化
 - ・フィニッシャー移設とレイアウト変更
 - ②ランドリー部門生産体制強化
 - ・100kw新規購入とレイアウト変更
 - ③私物洗濯部門生産体制強化
 - ・レイアウト変更による生産性向上
 - (2)設備撤去とコンパクト化
 - ・遊休設備の洗い出し
 - ・動線の変更

2. 経費削減

(1) アンダー25PJの継続

① 抑制経費項目の選択と集中

- ・ 原材料費の見直し
- ・ 水道費、電気費の削減

② 経費抑制の全体での取り組み

- ・ みんなで取り組むルール設定

(2) 固定費の見直し

① 一般管理費の無駄を探す

② 人件費の有効活用

③ 運搬委託費

3. 働きやすい職場環境の整備

(1) 安心安全な職場整備

① 安心安全会議開催とホーム4委員会の活性化

(2) 精神衛生が良い環境づくり

① 職員、一般者間の理解を深められる環境

② 一般者の会議参加の推進

(3) 連携力の推進

① ホーム内研修の実施

② あいさつ運動

「赤平リネンサプライ工場経営計画」

〈基本目的・理念〉

1. お客様に満足して頂けるサービスを提供し、お客様の要望には迅速かつ正確に対応する
2. 利用者が安心、安全で楽しく働ける職場環境を作り、利用者の作業能力向上と自立を目標とした作業支援を行う
3. リネンサプライ工場は、業界や北海道発展に参画し、リネンサプライを通じて地域の経済発展に貢献する

〈基本方針〉

1. 工場の職場環境の整備に努め、常に清潔・安定品質な製品をお客様に提供する
2. お客様の考えを大切にし、営業と共にお客様ニーズに対応する
3. 利用者の能力を把握し、長所を伸ばし利用者の自立を目標とした仕事に向かう姿勢作りの支援を行う
4. 従業員が長く働ける職場環境づくり、生産システムの構築
5. 工場が持つ技術・設備・人を効率的に活用し、北海道の観光市場のニーズに合った工場運営の追求

〈キーワード〉

『 同心協力 』

〈重点事項〉

1. 生産性向上
2. 利用者のスキルアップ
3. 作業環境整備
4. 工場全体の連携強化

〈具体的取り組み〉

1. 生産性向上
 - (1) タオル部門レイアウト変更・作業動線短縮
 - (2) 機械メンテナンス点検更新

2. 利用者のスキルアップ
 - (1) 品物受取り作業支援
 - (2) 日報記入作業支援

3. 作業環境整備
 - (1) 工場内冷風機増設及び導入検討
 - (2) 工場内床修繕

4. 工場全体の連携強化
 - (1) 各部門の情報連携強化
 - (2) ICT導入検討

「ていく経営計画」

〈基本目的〉

1. 利用児者と家族の幸せな生活を支える
2. 地域に頼られる事業所となる

〈基本方針〉

1. 利用児者と家族に温かい心で接し支援する
2. 地域貢献活動を積極的に行う

〈キーワード〉

『 学びあい♥助け合い♥認め合う
～信頼される事業所をつくる～ 』

〈重点事項〉

1. 働きやすい職場づくり
2. 職員の教育活動
3. 安心安全な環境づくり

〈重点事項の詳細〉

1. 働きやすい職場づくり
 - (1)「認め合う職場」をつくる活動
 - ①WT 活動
 - (2)職員の親睦を図る機会をつくる
2. 職員の教育活動
 - ①組織的な育成活動
3. 安心安全な環境づくり
 - (1)環境設定
 - ①送迎車安全装置継続
 - ②形跡管理
 - ③表示作成

- ④危険箇所チェック
- (2)防災・防犯の取り組み
 - ①避難訓練、防犯訓練
 - ②嘔吐処理研修
- (3)リスク管理
 - ①ヒヤリハット・虐待防止・感染防止活動

〈具体的取組〉

1. 働きやすい職場づくり

- ①WT の設置
- ②ていく親睦会 年1回 4月 予算5千円/人

2. 職員の教育活動

- ①管理者の教育活動
- ②職員の育成活動

3. ふくし講演会

- ①内容：児童支援、年1回以上、予算10万円
- ②担当：きっずていくあかびら
- ③具体案：きっずていくあかびら経営計画

4. ふくしワークショップ

- ①内容：地域共生社会、年1回以上、予算5万円
- ②担当：そうだんのていく（あかネット共催）
 - ・具体案：そうだんのていく経営計画

5. 周年行事

- ・令和7年度「ていく10周年」企画の立案
- ・WT 設置による検討

6. 保護者・親子交流企画

- ・イベント活動：全事業所交流会企画
- ・ニーズ別活動：座談会企画

- ・具体案：きっずていく担当事業所経営計画

<年間計画>

月	内容	担当	予算
4	働きやすい職場づくり活動 職員の教育活動 ていく親睦会	WT 管理者 幹事	0 0 150,000
5	こども食堂	野島	60,000
6			
7			
8	こども食堂	野島	80,000
9			
10	ふくし講演会 周年行事企画	きっずあかびら WT	100,000 0
11	ふくし講演会 ふくしワークショップ	きっずあかびら そうだんのていく	100,000 50,000
12			
1	こども食堂	野島	50,000
2			
3			

「そうだんのていく経営計画」

〈重点事項〉

1. 働きやすい職場づくり
2. 職員の教育活動
3. 相談支援の拡大
4. 札幌担当者との連携体制の構築

〈重点事項の詳細〉

1. 働きやすい職場づくり
 - (1)相談員としてやりがいを感じられる
 - (2)職場環境を整える
2. 職員の教育活動
 - (1)事業所内・外の研修参加
 - (2)あかネットの積極的参加
 - (3)資格取得の推進
3. 相談支援の拡大
 - (1)新規契約者増
4. 札幌担当者との連携体制の構築
 - (1)情報共有し、互いに協力する体制を整える

〈具体的取組〉

1. 働きやすい職場づくり
 - (1)相談員としてやりがいを感じられる
 - ①ていくサロン継続し、達成感や人との繋がりを感じる
 - ②関係機関と連携し、利用者支援を行う
 - (2)職場環境を整える
 - ①土曜日出勤の継続：作成に集中できる環境
 - ②毎朝MTで個々の業務を確認し、互いに協力し合える環境
 - ③業務のスリム化を図り、残業時間を減らす
2. 職員の教育活動
 - (1)事業所内・外の研修参加
 - ①札幌担当者と合同の事例検討
 - ②空知グループスーパービジョン・HSK・コラボ研修参加
・勉強する機会その他、全道の他事業所との繋がりを持ち、

情報共有や協力体制を構築する

(2)あかネットの積極的参加

- ①地域共生社会について学ぶ機会を作る
- ②地域にある福祉施設と顔の見える関係性を作り、協力体制を構築する

(3)資格取得の推進 →加算取得維持の目的

- ①精神障害者支援体制加算対象研修 1名
- ②医療的ケア児コーディネーター研修 1名

3. 相談支援の拡大

(1)新規契約者増

- ①法人外施設利用者
 - ・対象地域（空知管内）→年間25件増を目指す
- ②地域に『相談支援事業所の役割を知ってもらう』活動
 - ・ていくサロンを定着、維持するために助成金検討
 - ・ていくサロンを通じて地域のニーズを知り、今後の活動を検討する。

4. 札幌担当者との連携体制の構築

(1)情報共有し、互いに協力する体制を整える

- ①ICTを活用した連携体制
- ②互いの良いところを導入し、業務の質を向上

<年間計画>

月	内容	担当	予算
4	事例検討（毎月実施） 空知グループスーパービジョン（毎月） あかびら市立病院包括支援会議	全員 佐藤・斉藤 各施設担当者	18,000（年間）
5	ていくサロン（こども食堂） 相談支援の拡大（実態調査）	野島 斉藤	60,000（助成金）
6	ていくサロン（彩り字講座） HSK 研修 野中塾公開講座 相談支援の拡大（事業所訪問開始）	野島 佐藤・斉藤 佐藤・斉藤・野島 斉藤	15,000（助成金） 60,000 20,000
7	赤平小・中学校との関係者会議	斉藤	
8	ていくサロン（こども食堂）	野島	80,000（助成金）

	あかびら市立病院包括支援会議 コラボ研修①	各施設担当者 佐藤・野島	60,000
9	ていくサロン（終活サロン）	野島	10,000（助成金）
10	ていくサロン（彩り字講座）	野島	15,000（助成金）
11	ていくサロン（スマホ講座） 医ケア児養成研修 ふくしワークショップ	野島 受講者：斉藤 斉藤	10,000（助成金） 20,000 50,000
12	あかびら市立病院包括支援会議 精神障害者支援体制加算対象研修	各施設担当者 受講者：野島	5,000
1	ていくサロン（こども食堂） 赤平小・中学校との関係者会議 コラボ研修② HSK 研修	野島 斉藤 佐藤・斉藤 佐藤・野島	50,000（助成金） 60,000 60,000
2	ていくサロン	野島	60,000（助成金）
3			
		合計	653,000

「きっずていくあかびら経営計画」

〈きっずていく心得〉

「児童と家族の笑顔と安心を保証し、今を支え未来に繋げる」

〈重点事項〉

1. 働きやすい職場づくり
2. 職員の教育活動
3. 支援の充実
4. 地域貢献の活発化

〈重点事項の詳細〉

1. 働きやすい職場づくり
 - (1)時間外労働削減の取り組み
 - ①時差勤務の導入
 - (2)働きやすい環境づくり
 - ①計画的な有休取得
2. 職員の教育活動
 - (1)学校・他施設見学
 - (2)他施設合同支援検討会の開催
 - (3)オンラインセミナーの有効活用
 - (4)合同活動
3. 支援の充実
 - (1)児童発達支援の開始
 - ①託児との連携
 - (2)特性に合わせた活動の設定
 - ①支援環境の見直し
 - (3)合同活動/合同行事
 - (4)保護者支援
 - ①レスパイトケア
 - ②座談会開催
4. 地域貢献の活発化
 - (1)地域交流
 - ①地域イベントへの参加
 - ②敬老の日の高齢者施設訪問
 - ③地域団体との交流活動
 - (2)ボランティア活動

〈年間計画〉

実施月	内 容	予 算	担当者	備 考
4	【連携】 きっず合同通信発行 【購入】 支援ツール・玩具・書籍購入 ※児発支援必要物品購入	50,000 円		
5	【衛生】 エアコン洗淨 【活動】 ていく菜園/花植え 町内会花植えボランティア	40,000 円 15,000 円		
6	【活動】 保護者座談会 【研修】 発達支援勉強会 【行事】 お出かけ(中学生以上)	3,000 円 15,000 円 15,000 円		
7	【衛生】 カーペット洗淨 【訓練】 風水害避難訓練	55,000 円		
8	【連携】 関係者会議(赤平小・中学校) 【訓練】 火災避難訓練(消防) 【活動】 長期休暇活動	20,000 円		
9	【連携】 託児共同通信発行 【活動】 保護者座談会 【行事】 お出かけ(小学生) 【訓練】 シェイクアウト	3,000 円 15,000 円		
10	【地域貢献/研修】 ふくし講演会	100,000 円		
11	【訓練】 防犯訓練(警察) 【行事・連携】 ていくフェスタ	50,000 円		
12	【活動】 保護者座談会 【連携】 託児所合同クリスマス 【訓練】 火災避難訓練	3,000 円 30,000 円		
1	【連携】 託児共同通信発行 関係者会議(赤平小・中学校) 【研修】 支援検討会 【活動】 長期休暇活動 除雪ボランティア	20,000 円		
2	【衛生】 カーテン洗淨	55,000 円		
3	【活動】 保護者座談会 【研修】 支援検討会 【行事】 保護者会	3,000 円 10,000 円		
合 計		502,000 円		

「きっずていくあしべつ経営計画」

〈きっずていく心得〉

「児童と家族の笑顔と安心を保証し、今を支え未来に繋げる」

〈重点事項〉

1. 働きやすい職場づくり
2. 職員の教育活動
3. 支援の充実
4. 地域貢献の活発化

〈重点事項の詳細〉

1. 働きやすい職場づくり
 - (1)時間外労働削減の取り組み
 - ①適材適所の業務分担
 - (2)働きやすい環境づくり
 - ①どこでもデスクで集中できる作業スペース確保
 - ②暑さ・寒さ対策
 - (3)計画的な有休取得
 - ①年間計画作成
2. 職員の教育活動
 - (1)書籍・オンラインセミナーの有効活用
 - (2)他事業所・学校見学
 - (3)合同活動
3. 支援の充実
 - (1)特性に合わせた支援の提供
 - ①アプリ活用
 - ②手話の取り組み
 - (2)合同活動/合同行事
 - ①ていくフェスタ開催 11月
 - ②合同通信発行 4月
 - ③光生舎夏祭り 7月
 - ④誕生日・クリスマスプレゼント
 - (3)不登校児支援
 - ①学校と連携
 - ②強みを生かした社会参加
 - (4)生活経験の提供

- ①買い物・調理活動
- (5) 保護者支援
 - ①サークル活動の場所提供
- (6) 関係機関との連携強化
 - ①医療機関担当者と連携
 - ②学校・自治体
 - ③相談支援事業所
- 4. 地域貢献の活発化
 - (1) 地域交流
 - ①地域イベントへの参加
 - ②高齢者施設・地域団体との交流活動
 - (2) ボランティア活動
 - (3) 学生との交流
 - ①ボランティア・アルバイト募集

〈年間計画〉

実施月	内 容	予 算	担当者	備 考
4	地域：手をつなぐ親の会加入 連携：きっぷ共同通信発行 行事：おさがり提供	5,000 円 50,000 円		諸会費 行事費
5	購入：玩具・製作材料・児童書 地域：町内会費 環境：花壇補修 看板掛け替え 散水栓設置 活動：花、苗植え 研修：発達支援勉強会 研修：書籍購入等	50,000 円 5,000 円 50,000 円 150,000 円 231,000 円 10,000 円 0 円 30,000 円		教養娯楽費 諸会費 雑費 固定資産 固定資産 教養娯楽費 さくらんぼ担当
6	行事：町内運動会参加 環境：エアコンクリーニング	10,000 円 45,000 円		行事費 雑費
7	行事：光生舎夏祭り 活動：避難訓練（風水害） 活動：夏休み所外	0 円 0 円 30,000 円		教養娯楽費
8	連携：関係者会議（小・中学校） 地域：学生短期アルバイト 地域：地域行事参加 活動：避難訓練（火災） 活動：高齢者施設交流準備 行事：育成会療育旅行 研修：発達支援勉強会	50,000 円 15,000 円 0 円 5,000 円 10,000 円 15,000 円		2名×4日雑給 教養娯楽費 行事費 研修研究費

9	連携：防犯訓練		
	研修：他事業所見学	5,000 円	渉外費
9	活動：シェイクアウト		
	活動：高齢者施設訪問		
9	行事：茶話会	5,000 円	行事費
	研修：虐待防止研修	10,000 円	研修研究費
10	研修：書籍購入等	20,000 円	研修研究費
	地域：赤い羽根共同募金(町内会)	1,000 円	諸会費
10	行事：ハロウィン	10,000 円	行事費
	環境：除排雪契約	165,000 円	雑費
11	行事：ていくフェスタ	50,000 円	行事費
	研修：発達支援勉強会	0 円	あかびら担当
12	研修：感染症予防研修	1,000 円	研修研究費
	地域：歳末助け合い(町内会)	1,000 円	諸会費
12	行事：クリスマス会	50,000 円	行事費
	活動：冬休み諸活動	30,000 円	教養娯楽費
1	連携：関係者会議(小・中学校)	0 円	
	地域：高校生有償ボランティア	10,000 円	雑給
1	行事：新年会	10,000 円	行事費
	活動：避難訓練(火災)	0 円	
2	研修：救急訓練	0 円	誤嚥・てんかん
	行事：アイスキャンドル	10,000 円	行事費
2	研修：発達支援勉強会	0 円	たきかわ担当
	3	行事：お楽しみ会	30,000 円
合 計		1,169,000 円	

「きっずていくさくらんぼ経営計画」

〈きっずていく心得〉

「児童と家族の笑顔と安心を保証し、今を支え未来に繋げる」

〈重点事項〉

1. 働きやすい職場づくり
2. 職員の教育活動
3. 支援の充実
5. 地域貢献の活発化

〈重点事項の詳細〉

1. 働きやすい職場づくり
 - (1) 時間外労働削減の取り組み
 - ①
 - (2) 働きやすい環境づくり
 - ① パソコン購入
 - (3) 計画的な有休取得
2. 職員の教育活動
 - (1) 勉強会開催
 - ・ 発達支援勉強会
 - ・ 支援検討会
 - (2) オンラインセミナーの有効活用
 - ・ HUG システム内研修、リタリコ研修
 - (3) 学校・他施設見学
 - (4) 資格取得
 - ・ 児発管研修…実践研修
3. 支援の充実
 - (1) 個別支援活動の充実
 - ① ICT 活用
 - ・ iPad 購入
 - ・ デジリハ導入
 - ② 特性に応じた遊具の準備
 - ・ 幼児用の遊具購入

(2) 関係機関との連携・情報共有

① 関係者会議

- ・ 児童センター・幼、保、小中学校・美唄養護学校・旭川盲学校
- ・ 相談支援事業所（そうだんのていく・いんぐ）

② 旭川療育センター、富良野協会病院リハビリ見学

③ 自立支援協議会参加

(3) 合同活動/合同行事

① ていく合同通信発行

② ていくフェスタ開催

4. 地域貢献の活発化

(1) 地域交流

① 地域団体との交流活動

- ・ 手をつなぐ育成会入会…保護者交流会、クリスマス会

② 利用児童と地域児童との交流

- ・ きっずダンス 毎週木曜日

③ 地域イベントへの参加

- ・ お祭り参加

〈年間計画〉

実施月	内 容	予 算	備 考
4	研修：初任者研修 購入：支援教材購入 合同：ていく合同通信発行 地域：手をつなぐ親の会加入	50,000 円 5,000 円	年会費
5	研修：発達支援勉強会 行事：保護者会	15,000 円 5,000 円	さくらんぼ負担 芦別合同
6	研修：支援検討会 連携：関係者会議		きっず 児童センター
7	行事：光生舎夏祭り参加		
8	連携：関係者会議(小、中学校) 研修：発達支援勉強会 訓練：総合避難訓練 行事：手をつなぐ育成会合同行事 行事：地域行事参加	10,000 円 15,000 円	きっずあしべつ負担

9	連携：防犯訓練 研修：他事業所見学 訓練：風水害避難訓練 行事：高齢者施設訪問	5,000 円 5,000 円	きっず芦別合同 菓子折り等
10	研修：虐待防止研修 訓練：地震避難訓練		
11	研修：発達支援勉強会 行事：ていくフェスタ	50,000 円	赤平負担
12	研修：嘔吐処理研修 行事：クリスマス会	50,000 円	手をつなぐ育成会
1	連携：関係者会議 研修：支援検討会		幼、保、小、中学校 きっず
2	連携：救急訓練 連携：関係者会議 研修：発達支援勉強会 訓練：総合避難訓練		児童センター たきかわ負担 子どもセンター全体
3			
合 計		240,000 円	

「きっずていくたきかわ経営計画」

〈きっずていく心得〉

「児童と家族の笑顔と安心を保証し、今を支え未来に繋げる」

〈重点事項〉

1. 働きやすい職場づくり
2. 職員の教育活動
3. 支援の充実
4. 地域貢献の活発化

〈重点事項の詳細〉

1. 働きやすい職場づくり
 - (1) 時間外労働削減の取り組み
 - ① 時差勤務の導入
 - ② NO 残業デー 毎週水曜日
 - (2) 働きやすい環境づくり
 - ① 休憩スペースの確保
 - ② ありがとうの時間 毎週水曜日
 - (3) 計画的な有休取得
2. 職員の教育活動
 - (1) 学校・他施設見学
 - (2) 他施設合同支援検討会の開催
 - (3) オンラインセミナーの有効活用
 - (4) 合同活動
3. 支援の充実
 - (1) 支援環境の見直し
 - ① 児発・放デイ～活動スペースの分離化
 - ② 特性に合わせた支援ツールの購入
 - (2) 合同活動/合同行事
 - ① 合同通信発行 4月
 - ② 光生舎夏祭り 7月
 - ③ ていくフェスタ 11月
 - (3) レスパイトケア
 - ① 保護者座談会 隔月

4. 地域貢献の活発化

(1) 地域交流

- ① 地域イベントへの参加
- ② 高齢者施設・地域団体との交流活動

(2) ボランティア活動

(3) 一般学生との交流

- ① ボランティア・アルバイト・実習等受け入れ
- ② 国学院短期大学
保育科との交流活動・ていくフェスタボランティア

〈年間計画〉

実施月	内 容	予 算	備 考
4	【連携】 合同通信発行 【活動】 座談会	3,000 円	教養娯楽費
5	【活動】 花植え ゴミ拾い 【購入】 書籍購入 【研修】 発達支援勉強会	10,000 円 30,000 円	教養娯楽費 教養娯楽費 さくらんぼ担当
6	【地域】 国学院短期大学生との交流 【活動】 座談会 【購入】 支援ツール・玩具・書籍購入 【研修】 児発管研修	5,000 円 3,000 円 30,000 円 30,000 円	教養娯楽費 教養娯楽費 教養娯楽費
7	【行事】 光生舎夏祭り 【訓練】 風水害避難訓練 【衛生】 カーペットクリーニング	30,000 円 30,000 円	行事費 保健衛生費
8	【地域】 学生ボランティア等の受け入れ 【活動】 座談会 【研修】 発達支援勉強会 【訓練】 火災避難訓練	60,000 円 3,000 円	雑給 6H×10日 教養娯楽費 あしべつ担当
9	【行事】 親子行事 【活動】 高齢者施設訪問 ゴミ拾い 【地域】 国学院短期大学生との交流 【訓練】 シェイクアウト	50,000 円 5,000 円 5,000 円	行事費 教養娯楽費 教養娯楽費
10	【活動】 座談会	3,000 円	教養娯楽費
11	【行事】 ていくフェスタ 【研修】 ふくし講演会 【研修】 発達支援勉強会 【訓練】 防犯訓練	50,000 円	行事費 あかびら担当

12	【行事】クリスマス会 【地域】国学院短期大学生との交流 【活動】座談会 【購入】支援ツール・玩具・書籍購入 【訓練】火災避難訓練	30,000 円 5,000 円 3,000 円 30,000 円	行事費 教養娯楽費 教養娯楽費 教養娯楽費
1	【活動】高齢者施設訪問 【地域】学生有償ボランティアの受け入れ	5,000 円 12,000 円	教養娯楽費 2名3H×3日
2	【活動】座談会 【研修】発達支援勉強会	3,000 円 15,000 円	教養娯楽費 研修研究費
3			
	計	450,000 円	

「託児所びよんびよん経営計画」

〈基本理念〉

託児所は、舎員にとって「喜ばれる」福利厚生施設であることを理念とする。

〈基本目的〉

1. 保育環境を整え、安全に配慮した保育を目指す。
2. 保護者に寄り添い、子ども一人一人の個性に合った保育を提供し、成長過程を支援する。

〈基本方針〉

1. 子ども一人一人の個性を見つめ、子どもの利益を最優先に考えた保育を提供する。
2. 子どもが心地良く過ごす事が出来る環境の維持・工夫改善を行う。

〈キーワード〉

『 学びあい♥助け合い♥認め合う
～信頼される事業所をつくる～ 』

〈重点事項〉

1. 働きやすい職場づくり
2. 職員の教育活動
3. リスク管理体制の再構成
4. 定期的な行事の企画、実行

〈重点事項の詳細〉

1. 働きやすい職場づくり
 - ① 休憩時間の確保
 - ② 毎月の連休取得
 - ③ きつずとの連携

2. 職員の教育づくり
 - ①管理者の教育活動
 - ②職員の育成活動

3. リスク管理体制の再構成
 - ①緊急時対応マニュアル作成、対応時セット用意
 - ②感染症研修実施
 - ・ノロシュミレーション
 - ③緊急時対応実践研修
 - ・熱性けいれん、泣き入りひきつけ、アレルギー、乳幼児突然死症候群、誤飲

4. 定期的な行事の企画、実行
 - ①毎月の行事提案(担当制)
 - ②きっすとの合同行事(合同通信、クリスマス)

〈年間行事・訓練等計画・設備計画〉

月	行事・購入(予算)	壁面・製作	防 災	お便り	行 事	その他
4月	・お花見遠足 (3,000円)	壁面：動物・蝶々 製作：さくら	防災教育	村田	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
5月	・お花見遠足予備日 ・イベント行事 (3,000円)	壁面：動物 製作：こいのぼり	不審者侵入時 訓練	/	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法定期検証 ・ヒヤリハット内部研修 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
6月	・食育 (3,000円)	壁面：動物・雨 製作：かたつむり	火災時避難経 路確認	/	山本	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
7月	・運動会ごっこ (3,000円)	壁面：動物 製作：すいか	防災教育	鈴木	村田	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
8月	・夏祭り (10,000円)	壁面：動物・夏 製作：プール	避難訓練 (ていく合同)	/	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
9月	・秋遠足 (3,000円)	壁面：動物・コ スモス 製作：敬老の日	停電時対応訓練	山本(共同)	山本	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
10月	・ハロウィン (3,000円)	壁面：動物・とん ぼ 製作：ハロウィン	不審者侵入時 訓練		村田	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
11月	・食育 (3,000円)	壁面：動物・落ち 葉 製作：くり	防犯訓練 (ていく合同)	/	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法定期検証 ・ヒヤリハット内部研修 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
12月	・クリスマス会 (20,000円)	壁面：クリスマ ス 製作：クリスマ ス・ 年賀状	避難訓練 (ていく合同)	/	山本	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・玩具点検
1月	・雪まつり (3,000円)	壁面：お正月 製作：雪だるま	火災時避難経 路確認	山本(共同)	村田	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
2月	・節分 (3,000円)	壁面：鬼・豆 製作：ます	防災教育	/	鈴木	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
3月	・食育 (3,000円)	壁面：お雛様 製作：お雛様	停電時対応訓 練	/	山本	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検

「光生舎メディック・エル経営計画」

〈基本理念〉

企業授産を念頭に置き、顧客と利用者ニーズの実現

〈基本目的〉

1. 利用者が自信を持って働く職場として、顧客と社会に貢献する
2. 就労継続支援事業所として、雇用の拡大に貢献する

〈基本方針〉

1. 労働者、入所者の安全を何よりも優先する
2. 顧客に対し安全で良質な製品を提供し続ける
3. 顧客の潜在的ニーズを発掘して信頼される存在になる
4. 利用者の個性や可能性が活きる環境・活動を創造する
5. 問題、課題には常に質の向上をもって解決を目指す

〈キーワード〉

『 仕組化した行動 そして、行動量による成果 』

〈重点事項〉

1. 自分たちで決めた事を確実に守る組織
2. 役割の明確な、働き甲斐のある職場
3. 数値化による判断と次の行動

〈具体的取組〉

1. 自分たちで決めた事を確実に守る組織
 - (1) 事業内のルールを整理して守るルールを設定
 - (2) 行動量を増やすことを仕組化し、成果を増やす
2. 役割の明確な、働き甲斐のある職場
 - (1) 各部門と会議体の役割、目的を明文化
 - (2) 仕事の棚卸を行い役割の付与を行う
3. 数値化による判断と次の行動
 - (1) 目標と目的を明確にして KPI を設定
 - (2) KPI による行動の判断
 - (3) 報連相や情報共有時は数値化

取組事項	検討会議
寝具病衣賃借料の値上げ、静止型マット自社化	営業会議
A型利用者37名雇用、利用率の向上	支援会議
歩留まり率95%、廃棄率1%	生産会議
入院セット自社化	入院セット自社化PJ会議
生産経費抑制	病院寝具事業運営会議
事業所内研修活動の発足	経営会議
委員会、WTの見直し	経営会議
行事を充実させるための活動	支援会議

〈部門別取組〉

1. 業務部

「利益獲得の行動量を増やす」

(1) 埋もれている利益の獲得

- ①再洗率、廃棄率の安定による歩留まり率95%を維持
- ②エネルギーコストに対する修繕スピードを向上

(2) 維持する力の具現化

- ①属人化させない職域拡大行動
- ②KPI活動による生産性、品質の安定

2. 厚生部

「他職種連携～厚生部全体で利用者を支える」

(1) 利用率の安定(目標利用率95%)

- ①利用率低下防止の面談
- ②体調、精神面の情報を共有して支援内容に反映

(2) 他職種と連携する為の情報共有

- ①情報連携する際の方法を再確認して明確化

3. 営業部

「増収にする為の行動と成果」

(1) 売上増

- ①自社化入院セットの営業活動
- ②販売活動の促進

(2) 訪問数の強化

- ①訪問件数にKPIを設定

(3) 報連相の徹底

- ①関係者に漏れなく実行
- ②営業報告会を月に2回実施する事で知らないを無くす

4. 事務部

「広い視野を持ち、協力し合える環境作り」

(1) 事務知識の向上

① 計画的な事務勉強会を開催

② 業務部、営業部と連携する為の各部業務内容を学ぶ

(2) 事務作業の共有化推進

① 個人習得率に KPI と目標を設定して管理

「グループホーム翠経営計画」

〈基本目的〉

利用者が自立した社会生活を送るための支援を行う

〈基本方針〉

1. 利用者が安全に安心して暮らせる住まいの場とする
2. 利用者が自分で決めることを増やし、出来るように支援をする
3. 利用者の個性を尊重し、共同生活・社会のルールを学べる支援をする

〈キーワード〉

『 3つのWA（和 輪 話） 』

〈重点事項〉

1. 情報の共有
2. 利用者個人に合った支援

〈重点事項の詳細〉

1. 情報の共有
 - (1) GH間の密接な情報共有
 - (2) メディックとの連携
2. 利用者個人に合った支援
 - (1) 個人毎の背景への理解
 - (2) 個別支援計画への積極参加

〈具体的計画の詳細〉

1. 情報の共有
 - (1) GH間の密接な情報共有
 - ① 世話人ミーティングでの検討・協議の
 - ② 翠としてのルール作り
 - (2) メディックとの連携
 - ① 委員会活動の連携(虐待、防災・感染、ヒヤリ、5S)
 - ② 日中活動との情報共有

2. 利用者個人に合った支援

(1) 個人毎の背景への理解

- ① ケース事例検討
- ② 支援日誌の充実

(2) 個別支援計画への積極参加

- ① 個別支援計画確認会議の設定

3. 研修計画

(1) 虐待・身体拘束防止研修

(2) 事例検証を用いた世話人勉強会

(3) 世話人向けに利用者の日中作業所の見学

「ケアハウスすいこう経営計画」

老人文化憲章

高江常男 作

- 1 我ら身体は老いても心は青春である
- 2 ここは社会生活の延長の場である
- 3 他人を思いやりルール、エチケット、マナーを守ろう
- 4 常に身体を動かそう、それがリハビリになる
- 5 趣味を沢山持って楽しく向上しよう
- 6 何事にも興味と好奇心を持とう
- 7 明るい心と笑顔で、仲間と付き合おう
- 8 毎日の生活に張りを持って暮らそう
- 9 仕事良し、スポーツ良し、歌うも又良し
- 10 自分でボランティア活動をする自立心で助け合おう

〈基本理念〉

すいこうは、「すいこうを利用する入居者にとって生涯共に安心して楽しい生活が送れる居住の場」であることを理念とする。

〈基本目的〉

1. どんな時でも、安心安全を最優先し、入居者・家族へ不安を与えない。
2. 入居者誰もが自主性のある生活が実現できるような混合型施設を目指す。
3. 地域・市町村への貢献と密な連携を図る。

〈基本方針〉

1. 型にはめない、柔軟性を持った安全対策への取り組み。
2. どんな状況におかれても、限界を決めない。常に他職種が連携し解決する。
3. 入居者一人一人の残存能力を引き出し、出来る事の喜びを分かち合う。
4. 出来ないと言わない。「出来る為に」を考える。
5. 外部へ積極的に情報を発信し、混合型施設の良さを理解してもらおう。
6. 5Sを徹底し、業務の効率化及びサービスの質の向上を目指す。

〈キーワード〉

『 継続は力なり 』

〈重点事項〉

1. 介護技術の基礎固め
2. 外部との関わりある余暇活動の拡大
3. 効果的 PR 活動

〈重点事項の詳細〉

1. 介護技術の基礎固め
 - (1)入浴介助・オムツ交換基礎知識・技術の習得
 - (2)食事介助・口腔ケアの基礎知識・技術の習得
2. 外部との関わりある余暇活動の拡大
 - (1)ボランティアの利用拡大
 - (2)誰でも参加可能な外出レクの充実
3. 効果的 PR 活動
 - (1)前年度活動内容の精査
 - (2)宣伝活動の継続

- (3) 市民の方々への宣伝活動
- (4) ご家族・町内の方々への宣伝活動

〈具体的支援計画の詳細〉

1. 介護技術の基礎固め

[目的]

基礎的介護技術の復習を行う事で、中・重度化した入居者の安定した対応への実現に繋げる。

(1) 入浴介助・オムツ交換基礎知識・技術の習得

① 入浴介助の基礎研修

- ・ 資料を用いた研修

洗髪・洗身の順番やポイント等を記載した一般的な全介助の入浴介助方法について伝達研修を実施。

- ・ 実技研修

2名対応での洗身介助方法について、介護員同士で実技研修を行い、基礎固めに繋げる。

担当者：WT

実施月：5月

② オムツ交換・陰部洗浄の基礎知識研修

- ・ オムツ業者による研修の受講

(サイズ選び、オムツの当て方)

- ・ 陰部洗浄時の必要備品や段取り、ポイント等の基礎知識について資料を作成し、伝達研修を実施。

担当者：WT

実施月：8月

(2) 食事介助・口腔ケアの基礎知識・技術の習得

① 食事介助の基礎知識

- ・ 食事時の姿勢、注意するポイント等の基礎知識についての資料を作成し、伝達研修を実施。

担当者：介護員・看護師

実施月：10月

② 口腔ケアと義歯についての基礎知識

- ・ 口腔ケアの介助方法、義歯の取り扱い方、ポイント等の基礎知識について資料を作成し伝達研修を実施。

担当者：介護員、看護師

実施月：2月

2. 外部との関わりある余暇活動の拡大

[目的]

外出レクの選択肢を広げたり、ボランティアとの交流を活性化

させる事で、開放的な施設に繋げる。

(1) ボランティアの利用拡大

① 近郊市町村のボランティア活動等の導入

近隣市町村のボランティア活動や出前講座等を積極的に導入する。入居者に反響のあった活動は、次年度以降の導入検討とする。

- ・赤平社協：ゆるげん体操(9月)笑いヨガ(1月)
- ・赤平市健康推進課：保健師の血圧についての講話(6月)
- ・芦別絵手紙ボランティア(2回/年)
- ・慰問：サウンドトレイン(5月)紙芝居(11月)

(2) 誰でも参加可能な外出レクの充実

外出範囲や選択肢を広げる事で、その方の状態や趣味嗜好に合わせ、より多くの入居者に外出を楽しんで頂けるよう外出レクを企画実行する。

① 昼食付長時間日帰り旅行の企画実行

長時間の外出が可能な方や希望される方を対象に複数の行き先から入居者の方自身に選択して頂き、外出と外食を楽しんで頂く。

担当者：WT

- ・滝川菜の花＋とっぴ～(5月)
- ・ラベンダー園＋ランチ(7月)
- ・ブルーベリー＋ハイウェイオアシス(8月)

② 短時間日帰り旅行の企画実行

長時間の外出が身体的に負担となる方を主とし、数時間での外出と軽食を楽しめるような短時間の外出を企画実行する。

担当者：WT(発足：4月)

- ・芦別道の駅＋猿山(6月)
- ・雨竜道の駅＋ひまわり鑑賞(8月)

③ 滝川イオン買い物ツアーの企画実行

担当者：WT 実施時期：9月

3. 効果的 PR 活動

[目的]

今までの活動内容を精査し、効果的な活動及びターゲットを定めた宣伝活動を実行する事で、確実な待機者獲得に繋げる。

*KPIにて計画の遂行・管理を行う。

(1) 前年度活動内容の精査

前年度 KPI 活動での振り返りを基に、効果的な活動内容を

ピックアップする。

実施月：4月

(2) 宣伝活動の継続

効果が期待される事業所訪問の継続

配布場所：赤平・芦別・滝川市内事業所各種

実施月：4月・10月

(3) 市民の方々への宣伝活動

① ポスターとパンフレットの同時配布

ポスターとパンフレットをセットで配布し、施設概要から料金まですぐにわかるようにする。

ターゲット：入居者の子供世代

内容：料金見本例、サービス内容

他施設との違い(送迎有、家族の宿泊可等)を記載

配布場所：歯科医院、病院他

担当者：WT

配布月：7月

② ポスティング

ターゲット：独居生活をされている高齢者

配布時期：10月上旬

配布場所：赤平市豊里方面

③ 新聞への折り込み広告

プレス空知へ依頼し、入居者募集チラシを折り込む。

配布場所：滝川市・芦別市・歌志内市

実施月：8月

(4) ご家族・町内の方々への宣伝活動

① 町内の方々との交流

内容：百戸町内の方々をひまわり姉妹歌謡ショーにご招待。

*ひまわり姉妹のファンの方にも声を掛けて頂き、
口コミを狙う。

担当者：WT(5月発足)

実施月：7月

② 家族交流会の実施

内容：実施内容等はWTにて検討とし、文化祭開催時期に併せて実施。

*家族会終了後、参加されたご家族へ礼状と併せて
パンフレットも同封し、待機者の紹介文を添える。
年間行事写真や家族会での写真等も添えて送付。

担当者：WT(8月発足)

実施月：11月(文化祭と同時開催)

4. 各種委員会等計画

(1) ヒヤリハット委員会

活動目的：ヒヤリハット活動・危険発見活動を活発化させ、事故を未然に防ぐ。対策は効果検証を図り、より確実な事故予防を目指す。

① ヒヤリハット提出件数UPの取組

- ・些細な事でも記入できる簡易的な用紙を使用。

用紙の効果検証：5月 → 見直し後の効果検証：9月

- ・挙げられたヒヤリハットの対策の検討と実行

1か月分のヒヤリハットを一覧表にし、対策記入の上、周知する。

② 福祉用具点検・施設内危険箇所点検の継続(毎月)

③ 危険箇所点検結果の数値化により表を用いて、改善効果の数値変化を表に表し、見える化を図る。

「福祉用具」「居室点検」用紙の見直し：5月

④ マトリクス表の定期見直し(8月)

⑤ 入居者向けの事故予防意識向上への取組み

- ・家電製品による火災

内容：居室内で起こりえる火災として、電子レンジ・コンロ・電気ポットの適切な使い方を入居者へ説明。

*過去に発生した事例を基に説明する。

実施月：7月

企画者：ヒヤリハット委員会+防災委員メンバー(2名)

- ・福祉用具の正しい使い方

内容：車椅子・シルバーカー等の歩行補助具に関わる正しい使い方と転倒予防について

実施月：11月

(2) 5S推進委員会

活動目的：「いつでも、誰でも」継続的に5Sの意識が保持出来るような活動をする。

① 施設内5S巡視

目的：継続的な5S巡視による職場環境、ルールの維持

- ・指摘へのスピーディーな改善(10日間以内)

- ・同じ指摘を繰り返さない取組み策

ルールの改善・追加及び防止策の検討

*巡視結果はファイル保存とする。

- 内容： a 職員の巡視参加
 年度内に全職員が巡視に参加し、5S に対する意識を高める。
- b レク用品の整理整頓
 場所：5 階物品庫、1 階物品庫
 物品庫内の使用していないレク用品を整理整頓し、無駄な購入を控える。
 誰が見てもどこに何があるか分かるよう工夫。
 保持できているか定期点検を行う。
 (頻度：1 回/3 か月 3、6、9、12 月)
- c 事務用品や消耗品の整理整頓
 事務所・SS 内の事務用品や消耗品の形跡管理を行う事で、無駄な購入を控える。
- d 営繕関連の定期清掃の確実な実行管理
 車両清掃～1 回/3 か月(2・5・8・11 月)
 担当：車輛管理者
 配電盤清掃～全 10 箇所(各 1 回/年)
 (2 台ずつ/偶数月)
 担当：営繕担当者
- e 清掃場所毎の清掃内容と頻度の明確化
 清掃場所毎に清掃内容や頻度を各担当者が検討し、責任を持って各自が施設空間の清潔を保持する。
 場所：事務所、医務室、薬品庫、栄養士室、職員個々のロッカー、靴箱等
 頻度：毎月
- f 5S 勉強会の実施
 5S を行う目的、主な取り組み内容についての勉強会を実施する。
 対象者：全職員
 実施月：5 月

②情報の 2S 活動

- ・ PC 内報告書、議事録の保管ルール継続

- 内容： a 何年保管かを明確にし、不要なものは破棄
 b 1 年間分は SS 内に保管し、それ以前は 5 階物品庫に保管する。
 整理：3 月 書類破棄：4 月
 c 各委員会については、毎年 3 月にフォルダ内

の整理を行う。

- 書類保管ルールの継続
内容：a レク行事は、付箋をつけて保管する。
b 各委員会は 1 年間ずつ保管
- PC内2S巡視
内容：a デスクトップ上に保管された不要なフォルダを整理する。
b 「すいこう共有」内の2Sの実施
頻度：2回/年(6月、12月)
保管ルール：
 - デスクトップ内に保存しない。
 - 各委員会内データも必ずフォルダ保存
 - 写真はPC内フォルダに移動し、SD内データはその都度消去。
 - 「すいこう共有」内はフォルダにて保管

(3) 職員資質向上委員会

活動目的：感染・防災・身体拘束・虐待に関わる必修活動の総括的役割を担い、全職員が偏りなく活動企画に携われるよう企画メンバーを選定し、実行後の反省点を元に、種別毎に各委員会を3か月毎に開催し、次回への改善に繋げる。

[感染予防活動]

① インフルエンザ対策・コロナ対策

- 現状に合わせた現行マニュアルの見直し
内容：マニュアルを統一し、どの職員も基準の対応が滞りなく行えるマニュアルを完成させる。(5月)
次年度に向け再精査(1月)
担当者：防災対策感染予防委員会

② ノロウィルス対策

- ノロシュミレーションの実施による感染拡大の予防
内容：基礎編(7月)
応用編(1月)
担当者：防災対策感染予防委員会
- ノロ処理物品の定期チェックの実施(毎月)
担当者：職員資質向上委員会+介護員

③ 共通取組み

- 手洗い講習の実施(対象：入居者・職員)
実施月：10月
担当者：職員資質向上委員会+他職員

- ・感染予防啓発活動の実施
内容：入居者に向けた運営懇談会での呼びかけ
(食中毒、熱中症・脱水、感染症)
担当者：職員資質向上委員会＋各専門職
- ・食中毒警報に応じた予防呼びかけ
食中毒警報発令時は、入居者へ放送にて呼びかけ、予防への意識付けに繋げる。
担当者：栄養士

[身体拘束及び虐待防止活動]

- ①身体拘束防止への意識付け
活動時期：1回/3か月
活動内容：4・10月身体拘束基礎知識の勉強会開催
7・1月グレーゾーンの意見交換及び対策検討
担当者～虐待防止委員会＋他職員
- ②虐待防止への意識強化
 - ・虐待防止勉強会の定期実施
実施内容：虐待防止勉強会(基礎知識)
実施時期：5・11月
担当者：虐待防止委員会＋他職員
 - ・認知症のある方への不適切ケア予防勉強会
実施時期：8月
担当者：職員資質向上委員会＋他職員
 - ・グレーゾーン意見交換及び対策検討
実施時期：2月
担当者：職員資質向上委員会＋他職員

[リスク管理]

- ～BCPに沿った各リスク管理の確認と改善～
BCPに沿った各種活動・訓練を実行し、結果に応じてBCPの改善に繋げる。
- ①BCPに沿った感染症発症時における対応
 - ・PPE(防護具)着脱の実践
実施月：6月
担当者：防災対策感染予防委員会＋他職員
 - ・発症時シミュレーション
実施月：11月
担当者：職員資質向上委員会
 - ②BCPに沿った各災害を想定した訓練の実施
防災対策委員と連携し、防災設備の操作方法について

マニュアル化を進め、職員が偏りなく訓練の企画と実行に携わり、各自知識や初動対応の習得に繋げる。

- ・火災訓練(6月：日中、11月：夜間)
担当者：WT 発足
- * 日中避難訓練～訓練前に運営懇談会にて避難方法及び注意点の説明会を開催(5月)
- ・地震避難訓練(9月：シェイクアウト)
内容～運営懇談会にて入居者向けに訓練を実施
担当者：防災対策感染予防委員会
- ・風水害時避難訓練(8月)
担当者：防災対策感染予防委員会
- ・停電時対応シミュレーション(2月)
内容：停電時のマニュアルを作成し、マニュアルに即した対応のシミュレーションを実施する。
担当者：職員資質向上委員会

②防犯対策

- ・防犯に関する研修の実施
研修内容：防災対策感染予防委員会と連携し、勉強会を実施する。
* 内部での実施も必要に応じ企画実行する。
実施時期：7月、1月
担当者：防災対策感染予防委員会

③誤嚥時対応訓練の実施

- ・ヒヤリハット委員会と連携しシミュレーションを実施
実施時期：8月～食堂にて起こり得る誤嚥時対応
2月～異物除去困難時対応

④防災監視盤の操作手順勉強会の実施

- ・火災時に使用する防災監視盤の操作手順について勉強会を実施。
実施月：9月
担当者：職員資質向上委員会

[入居者の意見の収集・対応策の実施]

①定期的な入居者の意見の収集

頻度：2回/年
内容：環境(6月)、健康(2月)

②対応策の協議

意見内容に応じ、各職種・担当者間で対応策を協議し、改善に繋げる。

③意見への返答・改善策の見える化

入居者から出た意見に対しての返答や改善策は、掲示板を活用し、入居者が見えるようにする事で、信頼の獲得に繋げる。

(4)給食委員会

活動目的：「美味しく食べて健康維持」を目標とし、食事が生活の楽しみの一つとなるよう入居者・職員の声を基に、「楽しい食生活・安全な食事・健康維持」を向上させる。

開催日：毎月月初

参加者：所長、CM、相談員、NS、介護員、栄養士

①入居者参加型委員会の開催

＝入居者の意見・要望の献立への反映

- ・入居者1名に委員会に参加して頂き、意見・要望を求める。内容に応じ、改善策を検討する。
- ・食事、嗜好調査を実施し、要望を取り入れると共に、問題点の改善に向ける。(調査月：2月)

②食事の楽しみの提供

- ・会食の改善：毎月実施の会食について、反省点を求め改善に努める。
- ・会食メニューの検討：各月の担当者にて検討し、委員会にて決議する。
 - *食事アンケートや入居者の声を組み入れると共に、季節感を感じて頂けるメニューとする。
- ・セレクト食提供回数：1回/2か月の頻度で実施。
 - *セレクト食には新しいメニューを取り入れるようにし、反響を見て通常メニューへ組み込む。

③自立維持の為の安全な食事の提供

- ・各職種と連携し、入居者に合った食事形態・自助具の検討や献立の調整を行う。

④栄養に関する入居者への情報提供

- ・給食だよりの掲示(1回/2か月)
栄養に関する豆知識を給食だよりのとして作成し、エレベーター又は掲示板に掲示する。
内容：季節毎の行事の由来や食材等の栄養素の説明
身体に与える効果等

⑤健康維持の保持

- ・水分カウント者の選出

委員会内にて、必要水分量と理由を明確にし、入居者の選出を行う。

摂取手段の検討：各担当CM、NS、介護員にて協議
*担当介護員と共に検討する事で、より確実な具体的手段に繋げる。

周知方法：担当介護員により周知シートにて周知。

- 摂取量不足者の把握と対応策協議
水分摂取量の月統計を出し、摂取量不足の入居者については、促し方法等の再検討を行う。
但し、水分摂取量が安定した方に対しては、カウント対応の終了を決定する。
- 入居者の体重増減の把握と対応策協議
毎月測定の体重増減を確認し、問題が生じた場合は、NSが中心となり、主治医と連携し対応策を検討する。

(5) 入所検討委員会

活動目的：スムーズな入退居による経営安定化及び待機者のニーズに応える。
混合型施設のメリットを最大限に活かし、施設内事業所移行(特定⇔軽費)のニーズに応える。

開催日：毎月第2火曜日

参加者：所長、CM、相談員、看護師、介護員、栄養士

目標空室期間：5日間(*急な退居時：10日間)

① 入退院の支援

- 入院中の病状把握
2週間の入院期間を経た段階で、病状把握を行う。
家族・医師・CW等と情報共有や相談を密に行い、ご本人・ご家族同意の元で、スムーズな退院の受入れや退所見込みによる早期対応に繋げる。
- 入院中の状態低下
ADLを始めとした状態低下が見られた際は、ご家族の希望を聴き取り、意向を確認する。
医療行為ガイドラインに沿って検討し個別ケース会議にて協議し、すいこうで対応出来る範囲の見極めを実施。
保証人への説明及び意向確認を行う。
*ガイドラインを超える支援が必要な場合は、施設経営会議にて決議する。

② 退居予測検討の場

- 退居の可能性のある入居者の状況確認と対応
頻度：定例 OR 臨時

退居予測：退居の可能性のある入居者の有無を検討し、退居の流れ、その間の対応、新規入所者への早期連絡等の段取りについて検討する。

退居支援：医師もしくは施設が退居と判断した場合は、ご家族への適切な説明の元、円滑な退居に努める。

③継続的な待機者確保へ向けた活動の促進

- ・待機者への定期連絡～毎月5名ずつの待機者に、郵送又は電話にて入居希望や現状把握を行う。(待機者1名につき年2回の頻度)

～上位3名については、退居者発生予測に応じ、早期連絡と準備を行い、入所に努める。

- ・面談の実施～必要に応じ、自宅訪問や施設見学を実施
担当者：特定～CM・相談員・NS
軽費～相談員、NS(CM)

④軽費入居者への特定移行聞き取り調査の実施

- ・調査の実施～全軽費入居者対象に、定期的に特定移行への聞き取り調査を実施し、生活への不安解消及びスムーズな移行へ繋げる。

頻度：2回/年(4月・10月)

- ・特定移行選定基準表の運用
特定移行希望調査により移行希望のあった入居者へは、基準表を運用し、特定移行順位を決定する。

⑤軽費入居者への円滑な特定移行に向けた支援の提供

- ・突然の疾患等により、軽費入居者の特定移行への希望があった場合又は急を要す場合は、特定移行までの間、安心して生活が送れるよう居宅CMと連携し、外部サービスの導入支援を実施。
- ・外部サービスでは補えない状況の際は、ご家族との協力体制を確保し、一時的な支援提供の有無を検討する。

⑥医療行為ガイドラインの見直し

すいこう内で行える医療行為の範囲について、現状ニーズや時代背景に照らし合わせ、見直しを行う。

検討着手：1月～

決定：3月

〈研修計画〉

実施月	介護技術	医療知識・医療訓練	身体拘束・虐待
4月		医療行為勉強会	身体拘束基礎知識勉強会
5月	入浴介助基礎研修	感染症マニュアルの見直し	・虐待防止基礎知識勉強会
6月		PPE（防護具）着脱訓練	
7月		・服薬介助動作テスト ・ノロシミュレーション基礎編	身体拘束グレーゾーンの 意見交換と対策協議
8月	オムツ交換・陰部洗浄基礎研修	誤嚥時対応訓練(食堂 Va)	認知症のある方への不適 切ケア予防勉強会
9月			
10月	食事介助の基礎知識		身体拘束基礎知識勉強会
11月		感染症発症時シミュレーション	・虐待防止基礎知識勉強会
12月			
1月		・服薬介助動作テスト ・ノロシミュレーション応用編 感染症マニュアルの再精査	身体拘束グレーゾーンの 意見交換と対策協議
2月	口腔ケアと義歯についての基礎知識	誤嚥時対応訓練(AED使用)	虐待グレーゾーン意見交 換と対策協議
3月		医療行為ガイドライン見直し	

〈年間行事計画〉

★：PR 活動 ●：営繕関係

実施月	レク行事	健康管理・環境整備	防災・調査・PR
4月	カラオケ喫茶 ポケネット 川柳（文化祭用） 衣料品販売	各階廊下窓拭き(4～7月) 食堂ワックス掛け ●配電盤清掃	・軽費入居者特定移行調査 ★事業所訪問
5月	ボーリング 慰問（サウンドトレイン） 風船ゲーム 日帰り旅行（滝川菜の花）	ベランダ窓拭き(4・3階) 春の健康診断(夜勤従事者) 食中毒予防説明会 ●車両清掃 ●5S勉強会（職員対象） 給食便り（八十八夜）	
6月	玄関プランター花植え 絵手紙(ボランティア) 夏のミニ運動会 日帰り旅行（芦別猿山） 保健師による講話（血圧）	ベランダ窓拭き(1・2階、中庭) 熱中症・脱水症予防説明会 ●PC内2S活動 ●配電盤清掃	・入居者意見収集（環境） ◎日中避難訓練
7月	ひまわり姉妹歌謡ショー （百戸町内の方ご招待） ボールペン字 日帰り旅行（ラベンダー、ブルーベリー） 保健師による講話（血圧） 光生舎夏祭り	窓拭き(増床棟2・1階) 入居者向け事故予防説明会 （家電製品による火災） 給食頼り（土用の丑）	◎防犯対策訓練 ★ポスター配布
8月	七夕飾り・スイカ割り カラオケ喫茶 日帰り旅行（ブルーベリー、雨竜道の駅）	窓拭き(事務所) ●車両清掃 ●配電盤清掃	◎風水害避難訓練 ★プレス空知広告掲載
9月	敬老会 滝川イオン買い物ツアー ターゲットゲーム ゆるげん体操	食堂ワックス掛け 給食頼り（十五夜）	◎シェイクアウト ◎防災監視盤操作手順勉強会
10月	ボーリング 絵手紙（ボランティア） 半切書道	秋の健康診断(全職員) 感染症予防説明会 秋の手洗い講習 ●配電盤清掃	・軽費入居者特定移行調査 ★事業所訪問 ★ポスティング（赤平市豊里方面）
11月	家族交流会・慰問（ひまわり） すいこう文化祭 ポケネット DVD鑑賞 衣料品販売 慰問（紙芝居）	インフルエンザ予防接種 居室電気傘清掃 事務所・SS大掃除(～12月) 入居者向け事故予防説明会 （福祉用具使用方法と転倒予防） ●車両清掃 給食便り（お菓子のカロリー）	◎夜間避難訓練
12月	忘年会 クリスマスツリー飾り 正月飾り・餅つき	●PC内2S活動 ●配電盤清掃	
1月	新春紅白歌合戦 宝引き ふまねっと 笑いヨガ	給食便り（七草粥） 医療行為ガイドライン見直し	◎防犯対策訓練
2月	雛人形飾り 節分豆まき 輪投げ大会	●車両清掃 ●配電盤清掃	・入居者食事調査 ・入居者意見収集（健康） ◎停電時対応シミュレーション
3月	玉入れ 料理レク（どら焼き） ポケネット	給食便り（ひな祭り）	

「光生舎虹の里経営計画」

〈基本目的〉

1. 利用者の安全を守る
2. 利用者が個性やちからを発揮することができる生活を実現する
3. 利用者、家族の安心と期待に応える
4. 行政や他障害福祉サービス事業所、地域の期待に応える

〈基本方針〉

1. 利用者の気持ちに寄り添い、個人の価値観に配慮した支援を行う。
2. なぜ？を大切に、一つひとつの仕事の目的を明確にする。
3. 職員の前向きで自由なアイデアを大切にし、目的の実現に向けた取り組みを活発にする。
4. 利用者に対する介助や支援の必要性を共有し、一貫性のあるチームアプローチを実践する。
5. 現場の抱える問題点・課題を明確にし、職員全員で向き合い解決を目指す。

〈キーワード〉

『 いろんなことをやってみよう！
～いまのままでいいのかな？～ 』

〈重点事項〉

◎利用者・待機者確保の中期計画

1. 基本の整備と徹底
2. 利用者の日中活動充実と生きがい追及
3. 抱える介護から抱えない介護へ
4. 理想の支援者像に近づく取り組み

〈利用者・待機者確保の中期計画〉

1. 内部に利用者確保 WT を設置する
開催頻度 月 1 回以上
2. 養護学校卒後のコンスタントな受け入れ実績の確立
 - ①入所利用を目指しての、高校 1 年生からの体験利用計画策定とメリットの明確化。
 - ②養護学校訪問により、寄宿舍、学校生活と施設生活のギャップを共感しあい、学校と連携した卒後進路の支援に務める。
3. 相談支援事業所等との連携強化による受け入れ実績の拡大
 - ①年 3 回の DM 送信と電話挨拶、近隣関係機関への訪問
 - ②新規受け入れ窓口となる関係機関の開拓
 - ③介護の強みを生かし、障がい者の高齢化、ADL 低下等による、サービス提供維持が困難になってきたケースの相談窓口としての PR 活動。
4. 短期入所稼働率上昇
 - ①近隣通所系事業所、相談支援事業所への PR 活動
 - ②養護学校在学中からのプログラムに基づく体験利用の促進
5. 中長期計画進捗管理にて KPI を設定して取り組む。

〈重点事項の詳細〉

1. 基本の整備と徹底

(1) 安全を守るための事故防止活動

- ① 禁止食材、危険食材リストの作成と定期更新
- ② 保守点検実施方法の見直し
- ③ 定例事故検証 転倒対策強化

(2) 2S 巡視活動

- ① 整頓を重点とした活動の推進(不用品赤札活動)
- ② 必要なもの使いやすい場所に
- ③ 使った後は正しい置き場所に

(3) セルフチェック活動の活性化

- ① 個人セルフチェックの運用
- ② 毎月のセルフチェックの実施と活動促進

(4) カイゼン活動

- ① 誰もが改善を考え、実行できる風土づくり
- ② 施設レイアウト、建物使い方の見直し

2. 利用者の日中活動充実と生きがい追及

(1) 日中活動の実行

- ① 月～金の毎日の活動として実施する。
- ② 時間は 10：00～14：30
- ③ 場所は D ルーム
- ④ 内容は軽作業、余暇的活動、イベント

(2) 利用者が自由に活動出来る環境の整備

- ① スヌーズレンルームの設置
- ② 遊技場の設置

(3) 外出レクの企画実行

3. 抱える介護から抱えない介護へ

(1) 移乗機器の導入

- ・ 機器の検証と活用方法検討

(2) 移乗機器運用を見据えた施設内レイアウト見直し準備

- ・ 2025 年度以降、ノンリフティングを想定して居室レイアウトを見直す。

4. 理想の支援者像に近づく取り組み
 - (1) 育成指針、指導要領の作成
 - ・考え方、心構えの共通認識づくり
 - ・個人に合わせたスキル修得の順序、期間を考慮した育成プログラムづくり
 - (2) 研修計画に沿った研修の実行とフィードバック
 - ・テーマ1、チーム力、コミュニケーション
 - ・テーマ2、介護技術
 - ・テーマ3、障害や病気の知識

5. 委員会・プロジェクト活動
 - (1)ヒヤリハット委員会(月2回定例開催)
利用者の安全を守るための取り組み
 - ①原因究明と対策
 - ②保守点検
 - ③禁止、危険食材・食形態
 - (2)運営推進室(月2回定例開催)
 - ①感染予防委員会
感染症予防、発生時の安全確保と健康管理
 - ・感染予防に関する研修等の運営
 - ・季節、状況に応じた感染予防活動
 - ・健康診断の準備、運営
 - ②虐待防止委員会
施設で虐待を発生させない
 - ・虐待防止に関する研修等の運営
 - ・虐待防止に関するセルフチェック活動の推進
 - ③防災対策委員会
予防と災害発生時の安全確保
 - ・防災対策に関する研修などの運営
 - ・消防訓練の運営と精度向上
 - ・自然災害想定訓練の運営と精度向上
 - ・BCPの運用と見直し
 - ④身体拘束適正化委員会
適正を欠く身体拘束の発生ゼロを目指す

- ・身体拘束防止に関する研修等の運営
 - ・身体拘束発生状況の毎月の点検
 - ・自助具等の使用に関する毎月の適正評価
- (3) 5S 推進委員会(月2回定例開催)
- 見せられる施設づくりと使いやすい施設づくり
- ①施設内2S巡視
 - ②施設内3定促進
 - ③車両3S活動
- (4) カイゼン活動推進 WT(月2回定例開催)
- ①全員参加の改善活動の促進
 - ②建物の使い方の見直し
- (5) 人材育成推進 WT
- ①経営計画に沿った研修の推進
- (6) 地域貢献推進 WT
- ①経営計画7と年間計画に基づく活動の推進
 - ②法人地域貢献推進委員会と繋がった活動の推進
- (8) 労働衛生委員会
- (9) 倫理委員会
- (10) 情報の2SとICT活用WT
- (11) 利用者確保WT
- (12) ノンリフティング推進PJ

6. 資格・研修

- (1) 資格
なし
- (2) クロストレーニング
- ①リーダー層・一般職3級以上の法人内他事業所クロス
 - ②介護員の内部厨房定期クロス(フォロー体制構築)
 - ③調理員の他部門厨房クロストレーニング
- (3) 年間計画に基づく研修の実行、参加促進

7. 地域貢献推進の取り組み

虹の里地域貢献推進に関する指針

- ・地域住民との関わりの機会を増加させる。
- ・可能な限り利用者が参画、関与できる方法で活動する。

- (1) 施設前側道美化活動
 - ① 花植え
 - ② 利用者・職員による活動から町内住民を巻き込んだ活動を目指す。
- (2) 交通安全街頭啓発への参加
 - ① 全国交通安全週間、朝全日程参加
 - ② 利用者事前参加希望調査の実施と参加者の調整
 - ③ 1日に参加する人員は職員1名、利用者2名
メンバーは日替わり
- (3) 建物、設備の地域開放
 - ① 地域開放マニュアルの見直し
 - ② 百戸地区開放可能資源の取りまとめと地域へのお知らせ
- (4) 百戸神社草刈り
- (5) 指定避難所としての備えの再整備
 - ① 利用者3日間、地域住民1日程度を目安とする備品、消耗品類の点検整備と、管理方法の見直し。
 - ② 非常用ガス発電機の整備点検実施と、その後のメンテナンスに関する計画づくり。
- (6) 避難所受け入れ机上シミュレーションの実施
 - ① 内部実地訓練開催を前提とした準備とする。
 - ② 演習表(行動フロー図)の作成
 - ③ 演習表を基にした机上シミュレーションの実施と演習表の修正と、実地訓練に備えた手順書や掲示物の整備。
- (7) 法人地域貢献推進委員会と連携した取り組みの推進

8. 年間行事計画

(1) 誕生者会食

- ① 施設内にて出前＋誕生ケーキ提供で実施。
- ② 誕生者席は装飾する。予算 2,000 円/1 回
- ③ 出前料理を写真撮影し、メニュー表を作ることで選択しやすく、視覚的にも楽しめるようにする。

〈年間予定〉

	行 事 名	予算内訳	余暇充実
4月	開所記念会食	給 100,000 円	クラブ活動 2 回
	春のお膳会食	給 100,000 円	映画鑑賞 1 回
5月	GWお楽しみ会	行 50,000 円	クラブ活動 2 回

	鍋会食 イベント(食事つき)	給 100,000 円 行 150,000 円	映画鑑賞 1 回 外出レク
6月	ホットプレート会食 イベント(食事つき)	給 100,000 円 給 150,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回 外出レク
7月	ジンギスカン会食	給 180,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回 外出レク
8月	ジンギスカン会食	給 180,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回 外出レク
9月	敬老会(食事・写真込み) 鍋会食	行 250,000 円 給 100,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回 外出レク
10月	ハロウィン(食事込) 鍋会食	行 250,000 円 給 100,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回
11月	衣類移動販売 鍋会食 イベント(食事つき)	行 5,000 円 給 100,000 円 行 150,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回
12月	大忘年会(食事込) クリスマス会食	行 800,000 円 給 100,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回
1月	お正月お楽しみ会 新年会食 鍋会食	行 50,000 円 給 150,000 円 給 100,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回
2月	豆まき 節分会食 鍋会食	行 20,000 円 給 150,000 円 給 100,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回
3月	ひな祭り会食 鍋会食	給 150,000 円 給 100,000 円	クラブ活動 2 回 映画鑑賞 1 回

※大忘年会内訳…利用者 75 名 職員 45 名 ゲスト 5 名
(@6,500 円/1 人)

9. リスク管理計画

(1)ヒヤリハット活動

- ①事故事例から改善活動
- ②危険発見活動
- ③保守点検
- ④法人委員会による他施設からの情報収集

- (2) 感染予防活動
 - ① 感染予防マニュアルの見直しと予防の取り組みの整理
 - ② ノロウィルス初期対応シミュレーション
 - ③ コロナウィルス等感染症初期対応シミュレーション
- (3) 救急救命訓練
 - ① 施設内訓練 … 消防の協力を仰ぐ
 - ② 施設外訓練 … 赤平市で行う訓練に参加する
- (4) 消防訓練
 - ① 年2回の消防訓練(昼間、夜間)
 - ② 部分訓練(通報・避難誘導・消火)
- (5) 災害避難訓練
 - ① 風水害を想定した避難訓練の実施
 - ② シェイクアウト訓練の実施
 - ③ 非常用発電機起動訓練
 - ④ 非常用備蓄品使用訓練(照明設備、食事提供等)

10. 設備・環境整備計画

- (1) 安全を守るための環境設備
- (2) 快適を提供するための環境設備
- (3) 生産性を向上するための環境設備
- (4) 2025年度計画に向けた検討事項
 - ① サニタリー撤去
 - ② 浴室いざり改修

11. 働きやすい職場づくり

- (1) チームの自己チェックと課題の明確化
半年に1度の雇用管理 CHECK 25の実施。
一つのテーマに対する半年間の改善活動の実践。
- (2) 互いを認め合い、心理的安全性を高める取り組み
 - ① ありがとうカードの活動促進
 - ② 個人セルフチェックの活動促進
- (3) ワークライフバランスを大切にする取り組み
 - ① No 残業 DAY の導入検討
 - ③ 残業時間短縮と偏りを減らす取り組み
必要な残業は決められた手順(事前申請)で行う。
業務のムラなどを見直し、減らせる残業は減らす。

- 残業の偏りを減らす取り組み。
- 残業時間総数の削減に向けた取り組み

「光生舎フーレビラ経営計画」

〈基本目的〉

1. 障害者支援施設として、利用者の安全を守る
2. 利用者が主体性を持てる生活の実現に向けた支援を行う
3. 家族の安心と行政や教育機関の期待に応える

〈基本方針〉

1. 利用者一人ひとりの人格と個性を尊重する
2. 利用者が意欲的に取り組める関わりや環境を提供し、自立度を高める
3. 課題に対し安易に量(時間延長や人員増など)に頼ることなく、常に質の向上をもって解決を目指す
4. 仕事上の喜びや悩みは一人のものとし、共有する
5. 仕事の成果は日常の現場にあると肝に銘じ、現場主義に徹する

〈キーワード〉

『 みんなにとって価値ある場所づくり 』

〈重点事項〉

1. 基本の徹底
2. 支援環境の充実
3. 多様性のある施設環境への転換

〈重点事項の詳細〉

1. 基本の徹底
三つの活動
(1)ヒヤリハット活動
施設から危険要素を排除し、安全を追求する活動を続ける
(2)施設3S巡視活動
毎月の施設内巡視で整理・整頓・清掃の制度を上げる
(3)セルフチェック活動
毎月のセルフチェック実施と、結果後の改善活動で職場規律を向上

2. 支援環境の充実
 - (1) 余暇支援の充実
 - ① 運動活動の提供
 - ② 余暇の充実
 - (2) 日中活動の再編成
 - ① 再編成の取組
 - (3) 支援環境の充実
 - ① 個別対応の強化
 - (4) スキル向上への取組
 - ① 他施設見学
 - ② クロストレーニング
 - ③ 勉強会
 - (5) コミュニケーション向上への取組
 - ① 承認活動
 - ② 他者理解活動
 - (6) 継続活動
 - ① 前年からの継続活動

3. 多様性のある施設環境への転換
 - (1) 快適な生活環境の実現
 - ① 居室ベッド入替
 - (2) 快適な業務環境の実現
 - ① チェック表の電子化
 - ② スマホ増台
 - ③ 服薬支援システム
 - ④ 未使用空間の活用
 - (3) 個別対応ユニット
 - ① 個別対応への取組
 - ② 共有スペースの見直し

〈計画の詳細〉

1. 支援環境の充実

目的：特性や年齢に合わせた、環境・支援による自立度の向上
と、スキルの習得による対応力の向上

(1) 余暇支援の充実

① 運動活動の提供

身体を動かす機会を増やし、健康維持や増進へ

【取組内容】

- ・ 高齢層(サイネージを活用した軽運動)
 - ・ 若年層～中年層(体育館、野外での運動)
- ※年齢に沿った運動機会の提供へ

② 余暇の充実

娯楽室やプレイルームで取組める活動を提供

【取組内容】

- ・ 手遊び(パズル、ビーズ等を活用)
- ・ 装飾作成(季節的またはイベント毎の館内装飾)

(2) 日中活動の再編成

① 再編成の取組

環境班の縮小、利用者特性に沿った班活動、
年齢層に分かれての活動へ

【取組内容】

- ・ 現状認識、把握
- ・ 活動内容検討(ユニット化に向けての活動編成)
- ・ 活動環境、備品等の検討
- ・ 参加者の再編

(3) 支援環境の充実

① 個別対応の強化

個別への多岐にある対応を確実に実施

【取組内容】

- ・電子チェックリスト導入(個別支援等)

(4) スキル向上への取組

① 他施設見学

【取組内容】

- ・法人内施設見学(自法人の施設を知る機会)
- ・法人外施設見学(自閉症者対応施設等)
- ・養護学校見学(寄宿舍含め、学校活動を理解)

② クロストレーニング

他施設での支援や業務を体験することにより、
気づきや学びの機会へ

※障がいと介護の方が生活している施設(親愛等)

③ 勉強会

【取組内容】

- ・移乗動作(安全な介護動作習得)
- ・発達障がい(自閉症を中心)

(5) コミュニケーション向上への取組

① 承認活動

挨拶運動、ありがとうカード等を検討と実行

② 他者理解活動

職員間による相互理解

(6) 継続活動

① 前年からの継続活動

【取組内容】

- ・他者理解活動(利用者)
- ・担当廃止
- ・個別情報 1 本化

2. 多様性のある施設環境への転換

目的：住環境を見直し、個々が安心できる生活環境を整える
働きやすい業務環境を整え、充実した支援に繋げる

(1) 快適な生活環境の実現

① 居室ベッド入替

利用者が安全で使いやすい居室環境へ(3階実施)

※令和4年度～段階的に入替

(2) 快適な業務環境の実現

① チェック表の電子化

各種のチェック表を電子化し効率化する

※入浴表、歯磨き表等

② スマホ増台

増台する事で、職員間の連携や情報共有をより高める

※3台増台予定(計8台の計画)

③ 服薬支援システム

ICTアプリ「服やっくん」の導入により、服薬をより安全へ

※1ヵ月程度お試しとし、導入を判断

④ 未使用空間の活用

男性休憩室の検討と整備

(3) 個別対応ユニット

① 個別対応への取組

5ヵ年計画「施設内ユニット化」(主に活動空間)を実現し、個々の特性に合わせた活動環境を展開

【取組内容】

- ・ 体育館、作業場の活用方法検討
- ・ 必要備品の選定
- ・ 職員配置の検討
- ・ 試験運用
- ・ 効果検証

※通所者(生活介護)が利用する、空間や環境も含む

② 共有スペースの見直し

現状の共有スペースを快適に活用できる空間へ

【取組内容】

- ・ 食事スペースの見直し

※快適に食事ができる空間へ(レイアウト、設備検討)

3. 福祉ステークホルダーとの関係強化

目的：地域や家族、関係機関との結びつきを強化し、期待に応えられる事を前提に、質の高い施設運営を目指す

(1) 関係機関との情報共有

関係機関へパンフレットを郵送し、情報提供

① 情報提供方法

- ・ 相談支援事業所(空知管内)
- ・ 養護学校(空知管内及び入所歴のある学校)
※4月より準備し、5月中に全機関へ送付
※送付後に電話にて挨拶

② 情報提供内容

- ・ 施設紹介パンフレット(行事、日中活動の様子含)

③ 養護学校卒業生の近況報告

- ・ 2年間の卒後支援中を対象(年数回)
- ・ 養護学校と家族へミニ広報誌を送付
※主に進路教諭が中心となる為、各学校に合わせる

④ 利用相談

- ・ 書類確認、面談実施の上、受入判断(道外含)
※相談や面談はオンラインを含めて対応

(2) 地域(町内会)との連携拡充

町内の清掃活動、交通安全街頭啓発や行事に参加する事とともに、施設行事への参加を呼掛け、地域との交流を図る

① 全国交通安全運動期間の町内街頭啓発への参加

- ・ 春、夏、秋の年3回参加

② 町内ゴミ拾いを実施

- ・ 春～秋の間、月に1回実施

③ イルミネーション

- ・ 明るく活発的な町内づくり
- ・ 防犯を含めた啓蒙

※設置場所：玄関・食堂窓・庭等を検討し設置

(3) 赤平市内の社会奉仕団体との連携強化

ライオンズクラブ、社会福祉協議会、市役所との連携

① ライオンズクラブ主催の餅つき交流会、他行事への参加

② ごみゼロ運動、ゴミ拾いへの参加

(4) 家族会、地域との交流事業開催

① 家族交流会(総会)を実施する

4. 年間行事計画

(1) 活動のポイント

「利用者と職員が共に作り上げる行事(利用者の意欲向上)」

(2) 利用者の役割

- ①利用者の意向を反映
- ②準備・後片付けの時に、始まりと終わりに挨拶を行う
- ③準備・買い出し・司会進行・後片付け・放送係・挨拶係等
- ④反省会へ意見を反映(反省会参加も可)

(3) 職員の役割

- ①利用者の特性に合わせた行事を組む
- ②利用者の能力に応じ、利用者の役割を提供する
- ③日中活動・余暇時間を活用し、利用者と準備する
- ④反省会に利用者の意見を取り入れる
- ⑤実行委員会の役割として会計担当者を定める
- ⑥行事計画の進捗状況を定期的に報告し、決裁を受け行事の3日前には職員に行動予定・概要を周知する。

(4) 会食の概要

- ①誕生者会食
毎月、誕生者と会食
- ②施設会食
毎月施設会食を実施(野外・体育館)
【誕生月該当者】
 - ・利用者、職員ともに会食でお祝い
 - ・長寿祝いも兼ねる
(還暦・禄寿・古希・喜寿・傘寿・半寿・米寿・卒寿)
 - ・衣装や被り物で「誕生者」を一目でわかる工夫
 - ・年間で対象者リスト表を作成
- ③行事会食
年間行事計画に基づいた会食を実施

〈行事予定〉

月	行 事 名	指定会食	行事費	福利厚生	互助会
5月	運動会(食) GWおたのしみ会	コンビニ	130,000 円 30,000 円		
6月	家族交流会・総会(食)		200,000 円		300,000 円
7月	法人夏まつり				
8月	お盆お楽しみ会		30,000 円		
9月	あにまるキッチンカー		200,000 円		
10月	秋のお祭り(食)		300,000 円		
11月	文化レク		50,000 円		
12月	ライオンズ餅つき会 クリスマスパーティー(食)		550,000 円	200,000 円	20,000 円
1月	新春お楽しみ会		50,000 円		
2月	節分 ダンス♡レボリューション(食)	パン	20,000 円 130,000 円		
3月	フーレ・ヒットパレード(食)	ファミレス	30,000 円		100,000 円

※行事に伴う食事費用は「行事費または互助会」より捻出

※互助会よりグルメツアーの経費捻出の判断をとる

【新行事（趣旨内容）概要】

- ・あにまるキッチンカー：動物園とおやつ（キッチンカー）を提供
- ・秋のお祭り：お祭り要素（ショー、縁日、屋台等）
- ・文化レク：工芸、手芸等の工作または制作（外部講師可）
- ・ダンス♡レボリューション：ダンス（踊り）を中心とした催し
- ・フーレ・ヒットパレード：カラオケ大会をヒットパレード風に

【指定会食概要】

- ・コンビニ：コンビニメニューを厳選
- ・パン：様々な種類のパンを提供
- ・ファミレス：ファミレス要素（フェイク可）

【グルメツアー】

少人数グループで利用者の嗜好を主に、「グルメ」に特化した外出支援

○予算：互助会を予定 180,000 円(90 名×2,000 円) ※職員込

○期間：5 月～10 月(月 2 回程度計画) ※4 時間程度を目途(片道 1 時間以内の距離)

〈地域貢献予定〉

実施月	地域交流事業、行事
4月	町内ゴミ拾い
5月	春の交通安全街頭啓発、町内ゴミ拾い
6月	町内ゴミ拾い
7月	夏の交通安全街頭啓発、町内ゴミ拾い
8月	町内ゴミ拾い
9月	秋の交通安全運動街頭啓発、町内ゴミ拾い
11月	イルミネーション点灯(~3月)
12月	ライオンズ餅つき会

※一部、行事計画と比例

5. 委員会・プロジェクト活動

(1) ヒヤリハット委員会

- ①原因究明と対策
- ②危険発見活動
- ③保守点検

(2) 虐待防止委員会

- ①伝達研修(外部・内部)
- ②セルフチェック
- ③身体拘束確認

(3) 5S推進委員会

- ①施設内の3S
- ②情報の2S
- ③車両の2S

(4) 運営推進委員会

- ①健康管理部会
- ②防災対策部会

(5) 研修管理委員会

- ①施設内外の研修計画
- ②研修報告と伝達研修のとりまとめ

(6) セルフチェック活動

- ①セルフチェックアンケート配布と集計
- ②各会議等より課題選定、各委員会等に対策検討指示

- ③各委員会中心の点数向上に向けた対策の実施と検証
- (7)業務見直し活動
 - ①各委員会からの課題提起による見直し活動
 - ②リーダー会議からの課題提起による見直し活動
 - ③個人からの課題提起による見直し活動(改善提案)
- (8)資格
 - サービス管理責任者 瀧上 SL

6. リスク管理計画

- (1)ヒヤリハット活動
 - ①事件事例から改善活動
 - ②危険発見活動
 - ③保守点検
 - ④法人委員会による他施設からの情報収集
- (2)感染予防活動
 - ①ノコ発症初期対応のロープレ実施
 - ②感染症発症時の対応再確認
 - ③運営推進委員会 年間スケジュールに沿った活動
- (3)虐待防止活動
 - ①内部研修の開催と外部研修への参加
 - ②考え方の共有を図るためのディスカッション開催
 - ③虐待防止委員会 年間スケジュールに沿った活動
- (4)救命救急訓練
 - ①施設内訓練 … 消防の協力を仰ぐ
 - ②施設外訓練 … 赤平市で行なう訓練に参加
- (5)消防訓練
 - ①年二回の消防訓練実施(昼間、夜間)
 - ②部分訓練の強化(通報・避難誘導・消火)
 - ③運営推進委員会 年間スケジュールに沿った活動
- (6)災害避難訓練
 - ①地震、土砂、風水害を想定した避難訓練を実施
 - ②シェイクアウトへの参加

7. 研修計画

研修管理委員会を設置し、研修全般の管理を行う

○委員会の役割

- ・月に1回開催
- ・研修内容より、研修参加者を選任
- ・研修の振返り、伝達方法を定める
- ・参加研修、伝達研修の記録
- ・各委員会内容に付与する研修は、各委員会と連携

<施設外研修>

支援の質・チーム力に係る研修	支援員
虐待防止研修	支援員

<施設内研修>

虐待防止伝達研修	全職員
ノロシミュレーション	全職員
承認（認め合い）ワーク	全職員

<法人内研修>

管理者養成研修	該当者
サンキュウ研修	該当者
ホスピタリティ研修	該当者

※上記研修は基本受講研修

※福祉実務等、その他関連する研修は委員会にて選定

8. 住環境整備計画

居室ベッド(3階)入替(危険防止・快適性)

1階浴室個室扉交換(老朽化)

各階浴室カラン交換(老朽化)

2階SS窓設置(安全性)

体育館各トイレ扉変更(安全性)

玄関シューズロッカー交換(老朽化)

BONX増大(効率化)

スポットクーラー試験(快適性)

「光生舎クリーン・セブン経営計画」

〈基本理念〉

企業授産の追求・発展と利用者ニーズの実現

〈基本目的〉

1. 利用者が自信をもって働く職場として、顧客と社会に貢献する。
2. 障害者支援施設として、利用者の主体的かつ安定した生活を実現する。
3. 就労継続支援事業所として、障害者雇用の拡大に貢献する。

〈基本方針〉

1. 働く人の安全をなによりも優先する。
2. 顧客に対し安全で良質な製品を提供しつづける。
3. 顧客の潜在的なニーズを発掘し、一番に選ばれる工場を目指す。
4. 企業授産の理念を念頭に利用者の個性や、可能性が生きる環境・活動を創造する。
5. 生産や支援の課題には常に質の向上を持って解決を目指す。
6. 共に働き、生きる仲間として、すべての舎員の喜びや困難を共有する。

〈キーワード〉

『一視同仁』 ～ そしてやる気を大切にする ～

〈重点事項〉

1. 認め合う職場づくり
2. 人を育てる活動
3. 働きやすい職場づくり

〈重点事項の詳細〉

1. 認め合う職場づくり
 - (1) 利用者さんのやる気向上活動
 - ・役割付与
 - ・職域拡大
 - (2) セルフチェックの活性化
 - ・グッジョブ活動
 - (3) 利用者満足度向上
 - ・行事の充実

2. 人を育てる活動
 - (1) 内部研修の充実
 - ・対象者別研修会の実施
 - (2) 1on1 ミーティング
 - ・個人目標設定の進捗確認

3. 働きやすい職場づくり
 - (1) 職場環境整備
 - ・見える化推進
 - ・ICTの促進
 - (2) 困りごと収集と解決
 - ・セルフチェック活用

〈研修計画〉

No.	実施月	研修名	対象者	回数	担当者
1	5月	入荷・点検作業確認勉強会	利用者・一般者	1	高橋係
2	7月	災害時対応勉強会	職員	1	清水
3	9月	利用者の障害と対応①	職員	1	
4	11月	事務勉強	職員・パート	1	稲垣係
5	1月	虐待防止・権利擁護研修	職員・一般者	1	馬場係
6	3月	利用者の障害と対応②	職員	1	
7	毎日	本読み	職員		
8	随時	外部研修	職員		

※ 外部研修の参加は施設・工場に合った研修に随時参加する。

〈委員会活動〉

	身体拘束虐待防止委員会	防災対策感染予防委員会	5S推進委員会	ヒヤリハット委員会
4月	第1回委員会	街頭啓発	形跡管理点検	労働安全衛生手帳朗読
5月			ホコリ落とし	
6月		総合訓練	施設内ワックス掛け	
7月	第2回委員会	街頭啓発 交通安全勉強会	ラインテープ点検 貼り直し	KY T勉強会
8月		風水害避難訓練		
9月		街頭啓発 シェイクアウト	施設内ワックス掛け	危険予知活動 (基礎4つの法)
10月	セルフチェック見直し	インフルエンザ勉強会	形跡管理点検	
11月		ライフライン勉強会	ホコリ落とし	
12月	第3回委員会	手洗い・ガリテクニック講習		
1月		ノロウイルスシュミレーション		
2月		総合訓練	ラインテープ点検 貼り直し	
3月	第4回委員会 セルフチェック見直し	BCP見直し		
毎月	セルフチェック	防災自主点検	3S巡視	リスクアセスメント活動

「特別養護老人ホームしらかば荘経営計画」

〈基本理念〉

特別養護老人ホームしらかば荘は、利用者様一人ひとりが尊重され、「幸せな生活である」と感じられる施設サービスを提供すると共に、地域住民と協力や連携をしながら高齢者福祉を促進していくことを理念とする。

〈基本目的〉

1. 利用者の1日1日を大切にする
2. 個性を尊重した支援を行う
3. 高齢社会の担い手として地域の期待に応える

〈基本方針〉

1. 利用者目線で物事を考え、その人らしい生活が送れるよう支援する
2. 職員が連携を強化し、統一したケアを行う
3. 利用者が快適な生活を送れるように環境を整備する
4. 地域・病院・福祉機関等との連携を深め、頼られる施設づくりを行う

〈キーワード〉

『 凡事徹底 ～信頼～ 』

〈重点項目〉

1. 職員育成
 - (1) 接遇
 - (2) 学び

〈重点項目の詳細〉

1. 職員育成 WT 5ヶ年計画：R3年～R7年(R6年度/4年目)

重点項目：接遇

学び(能力向上、知識の習得、知識を深める)

具体的活動

1. 接遇

(1)基本の徹底～当たり前のことを徹底的に行う

①セルフチェック実施率 100%を目指す取り組み

- ・光生舎のルール…挨拶の見直し
- ・しらかば荘のルール…報連相、期限・時間の厳守について
- ・個別セルフチェック…成長～なりたい自分になる

目標の見直し…4～6月

(利用者対応、業務・モラル、接遇、個々の学び)

チェック表作成…7月

セルフチェック開始…8月(月2回評価・提出)

②対応4原則

「明るい笑顔」

「利用者目線」

「丁寧な介助」

「気持ちに寄り添う」

(2)ありがとうカード提出(月2回…個別セルフチェック提出時)

- ・貼り出したありがとうカードに、『グッド対応』と思うものを1つ選んでグッドシールを貼ってもらう。
- ・職員による投票制で『月間グッド対応』を決定する
- ・選ばれた『月間グッド対応』は朝礼で発表する

(3)接遇研修(ステップ2)

接遇動画視聴…9～10月(目標設定)

接遇目標を個別セルフチェックに追加…11月

2. 学び

(1) 研修

①知識の習得～勉強会の資料を作成する

- ・高齢者の理解：身体機能…4～7月
- ・利用者とのコミュニケーション：対応4原則の活用…4～7月
- ・高齢者の理解：嚥下機能…10～1月
- ・高齢者の理解：認知症…10～1月

②能力向上～実践

- ・高齢者の理解：身体機能体験会…8月
- ・利用者とのコミュニケーション：対応4原則の活用研修会…8月
- ・高齢者の理解：嚥下機能体験会…2月
- ・高齢者の理解：認知症研修会…2月

③知識を深める～ディスカッションによる情報交換・情報共有

- ・高齢者の理解：身体機能、利用者とのコミュニケーション…9月
- ・高齢者の理解：嚥下機能、認知症…3月

※学び：研修の進め方

- ・介護員を3名ずつ4つのグループに分け、グループごとに以下の活動を進める
- ・知識習得の為に勉強気に向けて資料を作成する
- ・能力向上の為に実践に向けて、体験会または研修会を開催する
- ・知識を深めるため、ディスカッションを開催し学びの情報交換・情報共有をする

(2) 個々の学び～スキルアップを目指して

- ①個々の介護上の問題点、目標を考える(知識・技術・能力面)
- ②問題解決・目標達成に向けて何をするか
- ③個別セルフチェックに入力し、意識づけ
- ④1年後(年度末)評価・反省

職員育成 WT 年間スケジュール

重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇 ・ 学び(能力向上、知識の習得、知識を深める) 		
	接遇・学び(スキルアップ)	学び(研修)	
4月	接遇：個別セルフチェック 目標の見直し(4～6月)	高齢者の理解：身体機能 ①体験会資料作成 ※6月上旬に資料の 進捗状況確認	利用者とのコミュニケーション：対応4原則の活用 ①研修会資料作成 ※6月上旬に資料の 進捗状況確認
5月	学び：個々の業務上の問題 点・目標作成、問題解決・		
6月	目標達成に向けて何をする か立案(4～6月)		
7月	個別セルフチェック表作成		
8月	接遇：個別セルフチェック 開始(8～3月) 学び：スキルアップ取り組 み開始(8～3月)	高齢者の理解：身体機能 ②体験会	利用者とのコミュニケーション②研修会
9月	接遇研修：動画視聴 (9～10月)	高齢者の理解、利用者とのコミュニケーションに ついて ③ディスカッション	
10月		高齢者の理解：嚥下機能 ①体験会資料作成 ※6月上旬に資料の 進捗状況確認	高齢者の理解：認知症 ①研修会資料作成 ※6月上旬に資料の 進捗状況確認
11月	接遇研修：接遇目標を個別 セルフチェックに追加		
12月			
1月			
2月		高齢者の理解：嚥下機能 ②体験会	高齢者の理解：認知症 ①研修会
3月	学び：スキルアップ取り組 み評価・反省	高齢者の理解：嚥下機能・認知症について ③ディスカッション	
定期	<ul style="list-style-type: none"> ・ セルフチェック ・ ありがとうカード掲示 『月間グッド対応』発表		

2. 各委員会活動

ヒヤリハット委員会

重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・事故原因の究明と周知 ・ヒヤリハット活動の強化 	
	活動	研修・勉強会
4月	各マニュアルの見直し ヒヤリ・事故報告書見直し会議	
5月	ヒヤリ・事故報告書見し会議	事故、ヒヤリハット報告書の提出目的についての勉強会
6月	ヒヤリ・事故報告書見直し会議	
7月	テーブル椅子手すり点検 ヒヤリ・事故報告書見直し会議	
8月	ヒヤリ・事故報告書見直し会議 各マニュアルの見直し	
9月	上半期事故別件数発表 事故内容のワースト3報告 ヒヤリ・事故報告書見直し会議	服薬介助マニュアル再周知・勉強会
10月	ヒヤリ・事故報告書見直し会議	
11月	ヒヤリ・事故報告書見直し会議	
12月	ヒヤリ・事故報告書見直し会議 各マニュアルの見直し	
1月	テーブル椅子手すり点検 ヒヤリ・事故報告書見直し会議	ヒヤリ基礎研修テスト
2月	ヒヤリ・事故報告書見直し会議	
3月	年間事故別件数発表 事故内容ワースト3報告 ヒヤリ・事故報告書見直し会議	
定期	浴室点検 センサー見直し検討会議 セルフチェック ナースコール動作点検 扉センサー電池チェック	

防災・感染予防委員会

重点項目	「感染予防に対する知識を深め、感染拡大防止に努める」 「日頃から防災、安全に対する意識を高める」	
	活動	研修・勉強会
4月	交通安全週間呼びかけ・啓蒙 災害時使用物品の点検・更新 水、電源確保訓練準備	
5月	手指消毒強化月間	水、電源講習会
6月	食中毒予防呼びかけ 緑茶提供終了・ほうじ茶開始 7月日中避難訓練準備	ノロウイルス講習会準備
7月	日中避難訓練実施 食中毒予防呼びかけ 手指消毒強化月間	ノロウイルス講習会
8月	食中毒呼びかけ 手指消毒強化月間	防災勉強会準備
9月	交通安全週間呼びかけ・啓蒙 停電時訓練 上半期反省	防災勉強会 手洗い講習会準備
10月	車両事故発生時対応周知 屋上の清掃	手洗い講習 インフルエンザ講習会準備
11月	交通安全週間呼びかけ・啓蒙 車両事故発生時周知 手指消毒強化月間	インフルエンザ講習会
12月	緑茶提供開始 手指消毒強化月間	
1月	夜間避難訓練準備	
2月	夜間避難訓練	
3月	反省、次年度に向けて取り組み 避難訓練反省	
定期	口腔ケアチェック(15日) セルフチェック(25日) 手洗い・うがい・消毒の徹底 防災点検(1回/月)	

5S 推進委員会

重点項目	・3S (整理・整頓・清掃)	
	活動	研修・勉強会
4月	カーテン洗濯準備 花壇整備 加湿器片付け	3S と 5S の違いの勉強会
5月	カーテン洗濯 エアコンフィルター清掃 扇風機設置・花購入	
6月	カーテン洗濯	5S 基礎テスト 1
7月	カーテン洗濯 居室 衣類整理	3S 活動のルール基礎的な勉強会 1
8月	カーテン洗濯 加湿器設置準備	
9月	ワックス掛けの準備 エアコンフィルター清掃 扇風機片付け。	
10月	ワックス掛け 加湿器設置	3S 活動のルール基礎的な勉強会 2
11月	ワックス掛け	
12月	ワックス掛け 大掃除	
1月	ワックス掛け	5S 基礎テスト 2
2月	ワックス掛け	
3月	年間活動の反省 加湿器清掃	
定期	<ul style="list-style-type: none"> ・居室 巡視 ・形跡管理 ・法人 3S 巡視 ・次亜水噴射器清掃(月末) 	

虐待防止・身体拘束廃止委員会

重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束及び虐待ゼロ ・虐待発見時の迅速な再発防止活動 ・緊急やむを得ない身体拘束が発生した際、迅速に身体拘束廃止活動を実施。 ・事例から身体拘束及び虐待に関する理解を深める 	
	活動	研修・勉強会
4月	『高齢者虐待防止マニュアル』の見直し	
5月	変更内容があれば周知活動	
6月	『身体的拘束等適正化のための指針』の見直し	
7月		『身体的拘束等適正化のための指針』の内部研修
8月		北海道高齢者虐待防止研修会(外部研修)の予定確認
9月		虐待防止・身体拘束廃止に伴う伝達研修内容の確認
10月		伝達研修
11月		
12月		
1月		スピーチロックに関する内部研修内容の確認
2月		スピーチロックに関する内部研修
3月		
定期	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフチェック(毎月) ・身体拘束定期チェック(3カ月毎) 	
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待及び身体拘束発生時の臨時会議の開催と再発防止活動の徹底 ・国内で起きた事例を踏まえた注意喚起 ・セルフチェックの実施率を踏まえた啓蒙活動 ・不適切ケアがあった場合、当事者と状況確認し、再発防止のため周知活動、必要に応じて主任を交えての面談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入社員に、虐待防止・身体拘束廃止に伴う伝達研修(随時)

広報委員会

重点項目	・誰もが読んで楽しめる紙面づくり	
	活動	研修・勉強会
4月	広報誌作成準備	
5月	広報誌作成	
6月	広報誌完成・発送	
7月	広報誌作成準備	
8月	広報誌作成	
9月	広報誌作成	
10月	広報誌完成・発送	
11月	広報誌作成準備	
12月	広報誌作成準備	
1月	広報誌作成	
2月	広報誌作成	
3月	広報誌完成・発送	
定期		

余暇活動 年間スケジュール

基本方針	利用者の余暇活動の充実
	活動
4月	個別ケア計画立案
5月	29日 希望レク(風船バレー) 担当：介護
6月	移動動物園(第4週水曜日 午後)
7月	24日 希望レク(玉入れ) 担当：看護
8月 夏祭り	
9月 敬老会	
10月	30日 希望レク(カラオケ) 担当：事務所
11月	27日 希望レク(ボウリング) 担当：介護
12月 クリスマス会	
1月	29日 希望レク(風船バレー) 担当：看護
2月	26日 希望レク(カラオケ) 担当：事務所
3月	26日 希望レク(玉入れ) 担当：介護
定期	DVD鑑賞(毎月) 個別ケア(毎月)

3. 教育・研修・講習会

(1)教育

- ①接遇
- ②介護技術・知識

(2)研修

- ①身体拘束廃止 内部・外部研修
- ②虐待防止 内部・外部研修
- ③老施協研究会議(全道・全国)

(3)講習

- ①各感染症・予防
- ②手洗い
- ③嘔吐物処理
- ④救急救命
- ⑤車両操作(事故発生時対応含む)
- ⑥水・電源確保

4. カイゼン活動

(1)Kリーグの継続

研修計画

	接 遇	勉強会・研修・講習
4月	・個別セルフチェック(目標の見直し) 4~6月	・高齢者の理解：身体機能 4~6月
5月	・利用者とのコミュニケーション：対応4原則の活用(研修会資料作成)	・事故、ヒヤリハット報告書の提出目的 ・停電時(水・電源確保講習会)
6月	・利用者とのコミュニケーション：対応4原則の活用(資料の進捗状況確認)	
7月	・個別セルフチェック(目標更新) ・利用者とのコミュニケーション：対応4原則の活用	・ノロウイルス講習会 ・内部研修：身体的拘束等の適正化について ・口腔衛生管理研修会 ・介護過程勉強会 ・全道老施協研究大会(外部研修)
8月	個別セルフチェック(運用開始～) ・利用者とのコミュニケーション：対応4原則の活用(内部研修)	・高齢者の理解：身体機能体験会 ・外部研修 (北海道高齢者虐待防止研修会)
9月	・接遇(動画視聴) 9月~10月	・防災勉強会 ・伝達研修(虐待・身体拘束廃止)
10月		・手洗い講習 ・救命講習
11月	・接遇(個別目標設定)	・高齢者の理解：嚥下機能・認知症(研修会資料作成) ・インフルエンザ講習会 ・老施協全国大会・研究会議(外部研修)
12月		・高齢者の理解：嚥下機能・認知症(資料の進捗状況確認)
1月		・高齢者の理解：嚥下機能・認知症 ・移乗介助勉強会 ・内部研修(スピーチロック) ・口腔衛生管理研修会
2月		・高齢者の理解：嚥下機能(体験) 認知症(研修会)
3月		・高齢者の理解：嚥下機能・認知症(ディスカッション)

「救護施設親愛の家経営計画」

〈基本理念〉

施設は利用者の共同、集団生活の場であり、かつ利用者一人一人の個性を尊重し、心身の健康の維持に努め、潤いと生きがいのある充実した生活が送れるよう支援するとともに、地域等との交流を図り、社会参加をもたせ、更生・自立の機会を与えることを理念とする。

〈基本目的〉

1. 生活困窮者の生活と命を守る
2. 満足度 NO.1 施設～親愛の家に来て・居て良かった！

〈基本方針〉

1. 個別支援計画・生活の質を向上させ、自立に向けた支援・ニーズに合わせた生活環境を提供する
2. 利用者・職員共に認め合い、思いやる
3. 地域貢献を通じて地域との繋がりを深める

〈キーワード〉

『 行動 + 継続 = 達成感 』

- ・行動に含まれる思い：スピード感をもって仕事をする
正確性をもって仕事をする
行動することを伝える（伝承する）

〈重点事項〉

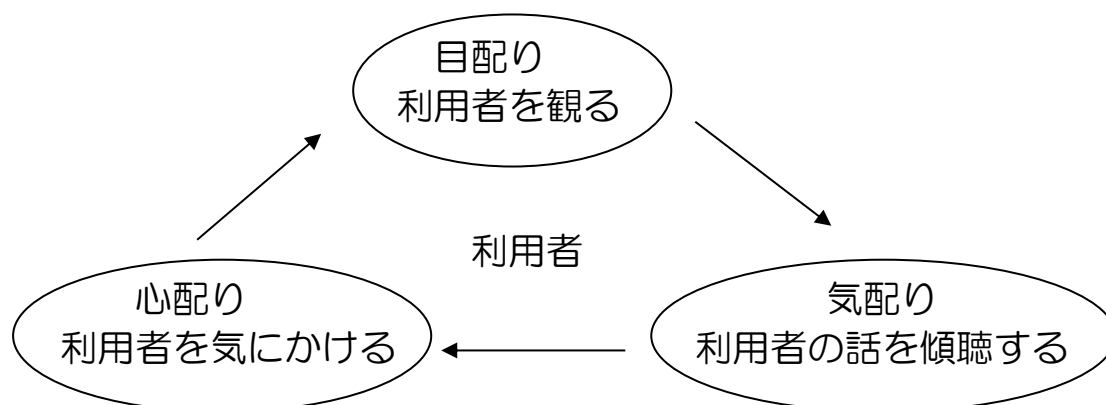
1. 地域貢献
2. 学び

〈重点事項の詳細〉

1. 地域貢献
 - (1) 地域食堂
 - (2) 菜園
 - (3) 美化活動
 - (4) 施設開放
2. 学び
 - (1) 利用者向け学習講座

〈具体的計画の詳細〉

1. 利用者主体の施設運営



親愛の家職員心得

- (1) 笑顔と礼儀を大切にしよう
内にも外にも笑顔で挨拶。
職員間だけでなく、利用者さんとも同じように行いましょう。
- (2) 常に謙虚であれ
素直に聞く耳を持って愚直に行動しよう。
謙虚な人ほど成長します。
- (3) 頼まれごとは大小にかかわらず実行せよ
面倒なことは後回しにしない。
自分の仕事に責任を持ち、相手を待たせないようにしよう。
- (4) 10分前行動ができること
心に余裕をもって行動しよう。
- (5) 利用者の笑顔を引き出すために職員自身も幸せでいよう
(ワークライフバランス)
多趣味であれ。趣味を持つことで、人としての幅も広がります。支援には、多角的な視野、広がりが必要です。

2. 介護計画

ポイント：利用者を理解し QOL 向上に向けての支援を実施する

- (1) 利用者とのコミュニケーションの時間を増やす
- (2) 個別支援計画に沿った支援を実行・実現する
- (3) 利用者の就労活動を拡充・継続する
(当番、施設内外作業の活動を含む)

(4) 居宅生活訓練を継続する

3. 看護計画

ポイント：利用者の適切な健康管理を行い充実した日常生活を送れるよう支援する。

(1) 適切な病院受診と薬の管理及び体調不調や急変時の対応

- ① 往診を適時活用、不要な受診を減らし医療費を削減する
- ② 一番近くにいる医療従事者として利用者の健康状態を把握、薬を理解し他職種にもわかりやすく薬を準備する。必要に応じて、往診医と連携し薬の調整及び受診調整を行う

(2) 健康維持、疾病予防

- ① 6月、12月健康診断の実施。有所見者に対する適時適切な再検査/受診調整とデータ管理による健康状態の把握
- ② 毎月体重・血圧測定を行いデータ化し、栄養士と連携し適切な食事療法の実施
- ③ 感染症発生予防、新型コロナウイルス及びインフルエンザワクチン予防接種の実施
- ④ 歯科往診医と連携・調整し適切な治療と口腔ケアの実施
- ⑤ 皮膚の観察・適切なスキンケアを行って皮膚トラブルを未然に防ぎ、皮膚疾患・褥瘡・疥癬の発生予防を行う

(3) 介護予防

- ① ADL 維持、転倒防止のためのリハビリ体操の実施
- ② 嚥下体操・発声練習により誤嚥を防ぐ
- ③ 介護予防が必要な利用者には個別に誤嚥・ADL 維持のリハビリ実施

4. 日中活動

ポイント：地域貢献に繋がる活動を目指す

(1) クラブ活動の充実

(2) 施設内外作業支援計画

- ① 施設内清掃(お掃除班としての活動継続)
- ② 施設外作業(除草、除雪、ゴミ拾い等)

(3) 軽作業

- ① 委託作業の充実
- ② 町内会での奉仕活動(除雪、環境美化など)

5. 年間行事計画

	行事内容	予算
4月	買い物レク(4月~11月)	120,000円
5月	買い物レク	120,000円
	日帰り旅行(5月~8月)	120,000円
6月	買い物レク	120,000円
	日帰り旅行	120,000円
7月	買い物レク	120,000円
	日帰り旅行	120,000円
8月	夏まつり	550,000円
	買い物レク	120,000円
	日帰り旅行	120,000円
9月	買い物レク	120,000円
	プロ野球観戦(9月7日、8日)	50,000円
	敬老会	200,000円
10月	買い物レク	120,000円
	ハロウィン	600,000円
11月	買い物レク	120,000円
	マグロ解体ショー	350,000円
12月	餅つき	50,000円
	大掃除	20,000円
1月	初詣レク	80,000円
2月	節分(年男・年女)	30,000円
3月	お楽しみレク	100,000円
	合計	3,470,000円

※クリスマス会…実施なし

6. 食事計画

ポイント：個々の健康状態に合わせた食事の提供

(1) 利用者の嗜好にあった食事の提供

給食運営会議からの利用者の声をメニューに反映する

(2) 予算にあった食事の提供

普通食：1食単価 270円

会食：1食単価 1,000円

(3) 食事提供方法の充実

食事選択の機会をつくる(会食・セレクト)

ホットプレートを活用しての会食の実施
(4) 厨房の作業効率・品質の向上・衛生面の強化
厨房会議内等で話し合いの機会を設ける

7. 地域との連携

ポイント：地域住民のニーズに合わせた活動実施

(1) 歌志内市地域福祉計画の策定に積極的に関わる

- ① 地域住民の施設見学を実施
- ② こども園、歌志内学園との交流継続
- ③ 社会福祉協議会との合同活動を運営、開催の継続

(2) 地域交流

- ① 地域住民へ施設開放の機会を作る
- ② 地域住民との交流の機会から地域課題を掘り下げ、地域に必要な活動を検討、実施する

(3) 地域貢献

- ① ゴミ拾い、除草、除雪、美化活動、広報活動等
- ② 地域食堂開催に向けた準備、協力体制を整える

(4) 地域イベントへの参加

町内行事、祭り、クリスマス会への参加と受入

8. 委員会活動計画

ポイント：施設内委員会活動の活性化

(1) ヒヤリハット委員会

- ① 事故を未然に発見、防止する活動(危険発見活動)の仕組み作りと実施
- ② 事件事例から事故を分析し、対策を立て、実行、評価する
- ③ 危険発見活動を活かし、多くのヒヤリハット件数を集め事故防止につなげる
- ④ 毎月の事故・ヒヤリ発生件数を掲示し前月と比較できるようにし事故防止に繋げる

(2) 防災・感染対策委員会

- ① 避難訓練の実施
火災避難訓練(日中・夜間)、風水害避難訓練の実施
- ② 職員への防犯・防災教育(防災訓練)の実施
- ③ 利用者への防災教育(講習)の実施

- ④地震の際の安全確保行動訓練(シェイクアウトの参加)
- ⑤親愛自衛団訓練(避難訓練・車椅子移動講習)の実施
- ⑥救命処置及び一次救命処置訓練の実施
- ⑦感染予防・新型コロナウイルスに関する知識及び技術の向上と対応方法の講習・吐物処理訓練等の実施
- ⑧職員及び利用者への手指衛生、手洗い指導と講習の実施
- ⑨熱中症対策のための環境調整、水分提供の徹底
- (3)自己評価・虐待防止委員会
 - ①虐待防止研修の開催
 - ②セルフチェック表の見直し、課題を見つけ達成率を上げる
 - ③職員間で注意・指摘し合える環境作り。
- (4)居宅訓練委員会
 - ①自立生活に向けた生活・就労支援
 - ②個別支援計画に沿った訓練の実施
- (5)広報委員会
 - ①利用者、家族対象の施設広報誌定期発行(9月・3月)
 - ②施設利用案内の定期更新
 - ③実施機関に向けた「親愛たより」の発行(年4回)
- (6)個別支援委員会
 - ①利用者一人ひとりの個性や主体性を尊重した計画書の作成
 - ②個別支援計画書を活用出来る仕組み作り

9. 実施機関との関係強化

ポイント：入所者数の定員維持は実施機関との良好な関係が重要であるため信頼関係の強化をはかる

- (1)実施機関への訪問
 - 積極的に実施機関に連絡し、情報交換を実施する
 - 年間スケジュールを組み利用者の実施機関、関係機関などの訪問実施
- (2)実施機関からの依頼
 - ①書類による情報だけで判断しない
 - ②どんなに遠い実施機関でも必ず面談する
 - ③相談を受けたらスピード感を持って対応し入所に繋げる
 - ④依頼を断らなければならぬケースでも他の施設を紹介するなど最大限協力する

(3)実施機関への情報提供

①施設利用状況

②入所後の利用者の状況など広報活動を通して提供

10. 教育、研修、施設見学、資格取得

ポイント：「人材の育成が施設の優劣を決める」の考えに基づき
OJT、OFF-J-T 両面から教育の充実を図る

(1)施設外研修

①救命講習⇒歌志内消防に協力依頼

②外部講師による講習など

(2)施設内研修

①勉強する機会を作り質の向上につなげる

②年間研修予定に沿って研修実施。受講する職員、
講師になり研修の組立を行う職員知識を身につける

③研修委員会設置、研修計画の立案、修整を行う

(3)施設見学

救護施設の視察⇒札幌圏、函館圏
帯 広、萬像園

(4)資格取得の促進

①防火管理者

②社会福祉主事

③介護福祉士

〈施設内研修計画予定〉

	研修内容	担当者
4月	感染予防	秋山看護師
5月	救護施設について	事務所
6月	虐待防止研修	虐待防止委員
7月	個別支援計画書について	個別支援委員
8月	接遇研修	加賀 L、福島 SL
9月	薬の知識	秋山看護師
10月	経営理念・ビジョン研修	岩井主任、倉木
11月	KYT	坂田看護師
12月	虐待防止研修	虐待防止委員
1月	応急処置、救命処置	坂田看護師
2月	重点事項報告	担当者
3月	決算報告	高島所長

〈介護研修〉

	研修内容	担当者
4月	オムツ講習会	介護福祉士保持者
5月	介護技術(移乗・介助)	
6月	基本動作(原理・原則)	
7月	介護技術(清拭・オムツ)	
8月	利用者コミュニケーション	
9月	オムツ講習会	
10月	介護技術(ベッド上での体位)	
11月	介護技術(移乗・介助)	
12月	介護技術(清拭・オムツ)	
1月	介護技術(ベッド上での体位)	
2月	利用者コミュニケーション	
3月	基本動作(原理・原則)	

※介護研修は各研修2回。

どちらかに参加するよう調整し全介護員参加する。

1 1. 職場環境

ポイント：働きやすい環境を作る

(1)有休取得の推進（年間6日間取得）

(2)メンタルケア

①うつチェック

②定期的な面談

(3)セルフチェック実施

①他職員の仕事に対しGoodポイントを記入。評価する機会を作り自身の成長に繋げる

②仕事を通じて「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉にする機会を作り、思いやる心を育てる

(4)誕生日お祝い

(5)改善活動

①改善活動を通じて業務の効率化を図り仕事のしやすい環境作りに取り組む

②他部門と協力し合い改善案提出し交流をもつ機会を設ける

1 2. 5S美化活動

(1)5S巡視、居室巡視を毎月行い施設内美化に努める

- (2) 5S 巡視を通じて他施設を見て学び自施設に取り入れる
- (3) 職場環境の改善
 - ①きれいな職場を維持しモチベーション向上に繋げる
 - ②安全性の確保

「光生舎プラザ・イン・サッポロ経営計画」

〈基本目的〉

1. 心身ともに安心して働ける職場を提供する
2. プラザー丸となりお客様に信頼される製品とサービスを提供する
3. それぞれの自立を実現し、豊かな人生を支持する。

〈基本方針〉

1. 安全、安心な職場環境を定着させる
2. 利用者、職員が活躍できる満足度の高い、職場へともに高みを目指す
3. 信頼のある工場・施設を目指し、職員と利用者が一致協力する

〈重点事項〉

1. やりがいのある職場づくり
2. 安心安全な職場環境
3. 専門知識、スキルの向上

〈キーワード〉

『 知覚動考（ともかくうごこう） 』

〈活動計画〉

1. やりがいのある職場づくり
 - ①利用者の職域拡大
 - ・ 個別支援計画の進捗共有
作成段階から全職員が携わり、計画に基づくサービス提供が確実にできるよう計画自体の質を高めていく。利用者支援日報を新たに作り、共有する場を設けていく。
 - ・ 利用者勉強会の実施
全体～個別に幅広く対応。一般就労を見据えたA型利用者や日常の困り事の解決手法など、利用者自身が成長を実感できるような内容を工夫し、多方面での意欲向上に繋げていく。

- ・新規作業の創出

工賃向上と作業のマンネリ解消を目指し、施設内外問わず新しい作業を開拓していく。また、部門に捉われないローテーション研修等を実施し、利用者のポテンシャルを引き出していく。

②利用者の満足度向上

- ・バラエティに富んだ行事活動

有志の利用者で行事の運営に携わってもらい、行事にバラエティ性を持たせるほか、行事運営を通して責任感や先を見通す力を醸成させたい。役割を得ることによるモチベーション向上にも期待。また、地域との連携を意識した行事も企画していく。

- ・給与(工賃)査定方法の設定

明確な基準を設け、頑張りが公平に評価される査定方法を検討。利用者の就労意欲、出勤率向上を目指す。

- ・ステップアップの体系構築

B型からA型、A型から一般就労へのステップアップを行うにあたっての判断基準を整備する。また、定期面談で意向確認を都度行い、希望があれば他部門・施設の実習に取り組めるよう準備を進めていく。

③生産性の向上

- ・作業スペースの改善

不要な機械を撤去しレイアウト変更を行っていく。より利便性の高い備品へとシフトする。適当なものが無い場合でも自分たちで作りあげていく意識を持ち、作業場改善を続けていく。

- ・欠品を発生させない体制構築

業務部門との密な連携をとりながら、実態に合った確実な在庫管理方法を整備していく。また、汚品仕分けを細分化するなど生産効率を向上させる取り組みを行っていく。

2. 安全安心な職場環境の整備

①5S活動の推進

利用者職員一丸となりキレイで安全な職場を整えていく。清掃方法や共用部の使用ルールなどを再考し定着を目指す。利用者も含む清掃班を編成し、担当箇所のキレイを維持していく。

②内部委員会活動の更なる充実

- ・活動への利用者の参画

利用者の声を聴く機会を設け、利用者自身も主体的に加わる

ことができる活動内容とする。安全と安心を共に築き上げるという目的を持ち、内部委員会活動を活発にしていく。

- ・ヒヤリハット件数増へ

ヒヤリハット事例の周知などを通して、活動の認知度を高め委員に限定した活動ではなく広く展開していく。

特に声に出せない利用者は十分に観察を行い、起こった事象の背景を深掘りし、ヒヤリハットへと繋げていく。

- ・想定し得る場面に備えた防災、防犯活動

備蓄品の適正管理や、季節や天候条件を考慮した訓練、避難後の流れまでを想定した動きの確認など、実際の有事に対応できる備えを行う。防犯については、不審者の侵入を想定した対応フローを作成するほか、防犯カメラなどの設備を整えていく。

3. 専門知識、スキルの向上

① 支援部分

- ・新しい研修体制の構築

全職員年1回以上の外部研修受講を必須とする。サビ管から定期的に研修情報を提供するほか、各自が興味を持つ研修の希望受講など、能動的に学びを深められる体制を構築する。

- ・支援職としての自覚と責任を高める

利用者担当制の導入。個別支援計画に基づく支援を担当職員が中心となり実行していく。困難事例についてはケース会議を開き、多職種による積極的且つ発展的な意見交換を行っていく。

- ・確実な情報共有と支援の統一

利用者情報のデータベース化促進。ほのぼのシステムを軸に、欲しい情報がすぐに拾えるような仕組みを形成していく。また記録についても同様に仕組みづくりを行い、情報共有のタイムラグを縮小させる。

② 生産部分

- ・専門知識の向上

内部での勉強会の継続。法人内外の他工場の見学や資格取得などを通して専門知識を向上させる。多能工育成を目指す。

- ・生産コストの削減

日々機械メンテナンスを行うほか、自社での修理修繕を行えるよう後任の育成をする。また、損益勉強会を実施しコスト意識を高めていく。

〈行事・研修計画〉

実施月	行事計画		研修計画	
	内 容	予算（円）	内 容	予算（円）
4月			ケース研究	
5月	季節行事	50,000	K Y T 勉強会	
6月			福祉基礎研修	
7月	野外会食	250,000	基礎知識勉強会	
8月				
9月	イベント行事	250,000	伝達研修、基礎知識勉強会	
10月			ケース研究	
11月	季節行事	50,000	事業所見学	
12月	クリスマス会	250,000	スペック研修	
1月	新年会	50,000		
2月	季節行事	50,000		
3月	季節行事	50,000	伝達研修、スペック研修	
	合 計	1,200,000	合 計	

「グループホームパール経営計画」

〈基本目的〉

利用者が自立した社会生活を送るための支援を行う

〈基本方針〉

1. 普段の暮らしから地域や社会に関わる機会を増やす
2. 自分で決める事を尊重し、実現できるよう支援する
3. 安心してその人らしい生活が送れるよう支援する

〈キーワード〉

『 彩り ～目の前の人の笑顔を作ってゆく～ 』

〈重点事項〉

1. 人材の定着と育成
2. 利用者情報のデータベース作成及びその共有と活用
3. 利用者個々の特性に合わせた支援とそれによる自立度の向上

〈具体的取組〉

1. 人材の定着と育成
 - (1)施設を「チーム」として捉え動いていく
stock やLINE などツールを活用し、利用者だけでなく
支援者同士の状況も把握しながら働くことで、
悩みを個人が抱えない職場環境を目指す
 - (2)外部研修の受講や内部研修の充実による支援者の能力向上
知識や経験を一人のものとせず絶えず共有していく仕組み
を作ることで、全体のスキルアップを狙う
2. データベースの作成及びその共有と活用
 - (1)共有フォルダ内に点在する利用者情報の整理及び更新
ほのぼのシステムを活用しながら必要なデータの抽出
を精査し「新しく使いやすい」ものを目指す
 - (2)区分調査、相談室や医師との連携を見越した内容の作成
情報の共有及び個別支援計画への落とし込みがしやすい
よう考慮し内容を整理する

3. 利用者個々の特性に合わせた支援とそれによる自立度の向上

- (1) ケース記録の内容をよりわかりやすくする
事実や状況から個別支援計画策定時の資料となるよう記録としての価値を高める
- (2) 可能なものから数値化し自立度の見える化を進める
アセスメント内容の見直しを行いレーダーチャートの作成における項目を精査する
- (3) 関係者会議の実施による他機関との連携強化
情報共有を行い利用者にとって必要な社会資源を提供することでよりよい支援を目指す

〈行事・研修・管理計画〉

実施月	行 事	研 修	管 理	備 考
4	春の誕生者会食 (3・4・5月)			
5	動物園レク 1班	虐待予防研修		
6	動物園レク 2班	発達障がい研修	避難訓練	
7	夏の誕生者会食 (6・7・8月)	他 GH 見学		
8				
9	防災レク 1班	身体拘束研修	健康診断(全職員)	
10	防災レク 2班		風水害避難訓練	
11	秋冬誕生者会食 (9・11・12・1月)	感染予防研修	インフルエンザ 予防接種	
12	クリスマス会			
1				
2	チョコレートを楽しむ会	スキルアップ研修	避難訓練	
3			健康診断(夜勤者)	

「光生舎フロンティア経営計画」

〈基本目的〉

チーム一丸となって、チャンスをつかえ、諦めずに
挑戦し続ける

〈基本方針〉

チャンス～ 全ての事を好機と捉え、ステップアップにつなげる

チャレンジ～ 多様な考えを受け止め、前向きに挑戦し続ける
協力体制

チェンジ～ 意識を変え、達成感を得られる環境を提供する

〈キーワード〉 法人キーワード 職員が幸せと思える職場づくり
『 3C (チャンス、チャレンジ、チェンジ) 』

〈重点事項〉

1. 利用者サービスの充実
2. 生産体制の見直し
3. 働きやすい職場づくり
4. 人材育成、定着

〈部分計画〉

1. 利用者サービスの充実
リーダー 鷺見主任
メンバー 野口 AD、北川 L、牧野係、赤間係

(1) 個別支援計画面談と相談援助のスキルを向上させ、適切な支援を行い利用定着に繋げる。

⇒ 随時監査や内部監査の指摘内容を職員間で共有、改善する。

⇒ 法人内の他事業所の計画の立て方を取り入れる。

⇒ レーダーチャート導入計画(法人活動に準じて)

(2) 社会性を身に付ける為の勉強会の開催

人間関係・報告連絡相談・言葉遣い・働くマナー
⇒KITE(そうだんのていく札幌)の勉強会に参加

(3) 利用者のモチベーション向上の取り組み

⇒役割を付ける?
⇒勤続年数に応じ表彰 記念品贈呈
⇒利用者の行事企画・司会進行への参加

(4) レクの実施

隔月 誕生者会食
4月 卓球大会
5月 ボウリングレク
6月 日帰りツアー(ロイズ)
9月 焼肉と夏祭り
12月 クリスマスケーキ配布
2月 豆まき
3月 忘年度会

2. 生産体制の見直し

リーダー 橋本

メンバー 大田主任、北川L、小室係、稲垣係、今井係
永井係、牧野係、赤間係

・週間計画すり合わせ(継続)

(1) リネン購入面

- ・リネン品のり落としカレンダー作成、運用、周知
- ・周知方法→糊落としカレンダーの掲示
- ・在庫状況の把握(多目的、二十四軒倉庫、赤平工場)
→Google フォームの活用によるリネン購入費の抑制
- ・リネン共通化による生産効率化

(2) 機械面

- ・機械のトラブル対応(停止時間削減)
→修繕技術、知識向上(マニュアルの整備化)
→アラームがなったらすぐ報告する体制づくり

→バックトラブル等利用者で対応できるようにする
(不良バックの修繕)

- 機械点検による修繕箇所の洗い出しと共有、計画修繕日を作成、運用
- 部品在庫の確認、調達
- 乾燥時間の再検
- 仕上げの温度、スピードの再検によるコスト減、生産効率アップ
- 修繕箇所の洗い出しと共有

(3) 人員面

- 人員確保(アルバイト、派遣)
→繁忙期2ヶ月前に稼働試算を行い、募集、育成を行う。
- 班編成の見直し
- 工場配置人数の見直し(繁忙期、閑散期で処理データから算出)

(4) 生産計画面

- 日時生産点数の底上げ(6万点/8h)
→利用者の適正配置の見直し
- アルバイト勤務時間再検 8.5h シフト時
→アルバイト 17:30~22:00 4h 勤務 人件費抑制
- 納品、生産点数の見える化

3. 働きやすい職場づくり

リーダー 北川 L

メンバー 中村 M、今井係、佐々木係、稲垣係、澤田係、橋本

(1) 安全な職場環境作り

老朽化対策(床補修・階段のステップ滑り止め修繕他)

暑さ・寒さへの対策

暑さ→4月、5月 寒さ→11月

扇風機・サーキュレーター増設とエアコンメンテナンスと
定期清掃

外部研修参加による勉強会(伝達研修など)

KYT 研修

閑散期(4月、11月)の工場内外の大掃除実施
防災・感染予防マニュアル見直し

(2) 職場内作業改善

整理整頓の徹底(台車置場など)

タオル受取コンベア撤去とレイアウト変更

4. 人材育成、定着

リーダー 大田主任

メンバー 鷺見主任、増田係、永井係、小室係

◇活動内容

- 1 on 1 MT(中途採用者職員向け)

⇒採用後半年間を目途に面談を実施(必要に応じて延長)

⇒採用後3ヶ月迄(試用期間内) 週1ペース

⇒3ヶ月(本採用後)～半年迄 隔週1ペース

- 社内研修(障害特性、利用者毎の特性 他)

⇒LITALICO 資料運用(支援員)

⇒事業所内利用者特性の研修(鷺見主任)

⇒接遇研修(増田係)

⇒仕事の進め方研修(小室係)

⇒リネンサプライ研修(小室係)

他

- 外部研修(施設相談員研修 該当者のみ)

⇒虐待に関する研修(鷺見主任)

⇒ヒヤリハットに関する研修(鷺見主任)

⇒新任施設相談員研修(1～3年目対象)

※本社からの連絡待ち

他

- 事業所見学(法人内、社外)

⇒法人内工場見学(新規採用者対象)

⇒社外福祉事業所見学(鷺見主任)

⇒社外工場見学、出張(小室係)

他

- OJT

～2/1 リーダー中心になり詳細計画の打ち合わせ

2/2 フロンティア内部で詳細計画すり合わせ、決定

「光生舎ゆいま～る・もみじ台経営計画」

《ゆいま～る共通》

〈基本理念〉

1. わたしたちは、すべての人が生きがいを感じられる人生を実現するために存在する

〈基本目的〉

1. 安全・安心・安泰を実現する
2. ゆいま～るに関わるすべての人を幸せにする

〈基本方針〉

1. 理念を遵守する
2. 進化への挑戦

〈キーワード〉

『自ら考え、明日を創る』

～すべての人の生きがいのために～

〈重点項目〉

1. 基本の徹底
2. 個別ケアの展開
3. 業務の適正水準の構築

〈点事項の詳細〉

1. 基本の徹底
三つの活動
(1)3S活動
①毎月の施設内巡視で整理・整頓・清掃の基盤を作る
(2)セルフチェック活動
①毎月のセルフチェック実施と、結果後の改善活動で職場規律を向上
(3)ヒヤリハット活動
①個人の尊厳を念頭に置きつつ、施設の危険要素を排除し、安全を追求する活動を続ける。

2. 個別ケアの展開

(1) 個別ケアの事例作りと参加を通じた意義の浸透

昨年度のノウハウをもとに、ユニット横断的に、かつスピード感を持って小さく PDCA を回す。家族や多くの職員が生きがいを感じられるような活動を目指す。

(2) 研修の位置づけと研修体系の確立

① 研修の在り方について、意識変革または研修と評価の連動を伴う見直しを行う。

② 前年作った基盤の上に、上記の在り方に基づいた研修体系を築く。

3. 業務の適正水準の構築

(1) 情報共有のギャップの是正とDXによる円滑化

① google アプリケーション活用促進

前年の基盤（アカウントと規約作り）をもとに、サイト・foam・chat・classroom を活用し、得たい情報にアクセスしやすい環境を整える。

② デジタルサイネージ導入とSIM なし iPad の活用

目的は①に同じ。前年のスマートフォンを併せ、固定情報を表示するツールとして、デジタルサイネージとSIM なし iPad を活用する。

③ 書類のファイリングのシステム作り

施設内すべての書類管理方法、ファイルの統一化

(2) 在庫管理

① 在庫管理アプリの導入

棚卸、定数・定量化、属人化の脱却、業者との連携

(3) 業務の再構築

① 仕事量の見える化と職員配置の適正化

前年のFIMレーダーチャートをベースに、ユニットごとの仕事量のばらつきを精査し、配置の見直しを行う。

また、特養の人員に関しては、配置の定数について精査し、その人数でする仕事の組み立てを行う。

(4) 経営の健全化

① 各部門が単独での経常増減差額黒字になるよう足場を作る。

〈計画の詳細〉

1. 個別ケアの展開

(1) 個別ケアの事例作りと参加を通じた意義の浸透

① 『小さな願い』 叶える PJ 活動

※ご入居者の日々の生活の中での小さな願い（やきとりを食いたい・・・など）をかなえるプロジェクト

- ・『小さな願い』 叶える PJ 活動の実施
- ・半年単位の実施計画の策定（昨年度の試験運用を経て）
- ・中核となるリーダーの動きとチームとして参加する職員の動きの型決め
- ・計画や記録など実施環境の整備

② 栄養マネジメント計画書の充実

- ・職員補充 3 ヶ月後を目標に栄養マネジメントの再開
- ・栄養マネジメントを通して栄養状態の指標作成、アプローチ方法の検討

③ 看護師担当制の深化とチームケアの礎作り

- ・チームとしてのケアの在り方を検討・実行する
- ・担当制の評価（外部評価）と見直し

(2) 研修の位置づけと研修体系の確立

① 研修の位置づけ・体系の検討・確定

- ・研修の在り方検討 WT の発足（2 か月程度）
- ・位置づけの検討と確定
- ・体系の検討と確定
- ・リーダーによる SL 研修の構築と実践

2. 業務の適正水準の構築

(1) 情報共有のギャップの是正とDXによる円滑化

① ICT 導入 WT 内 情報発信チーム発足

- ・ICT 導入 WT 内 情報発信チーム活動（通年）

② google アプリケーション活用促進

- ・昨年度の研修委員会から一部引継ぎ、サイト・chat・classroom 等 google アプリケーションの、新たな活用方法の検討、活用方法の適宜見直し、アカウントの随時作成・削除を行う

③ デジタルサイネージ導入と SIM なし iPad の活用

- ・時間が空いた時にアクセスするのではなく、いつでも必要な時に必要な情報にアクセスできる環境を整える
- ④スマートフォンとインカムの活用
 - ・各部で導入後のスマートフォン・インカムの評価と、新たな使い方の検証・実践
- ⑤書類のファイリングのシステム作り

WT 発足し、全書類の現状把握（保管場所、保管ファイル、保管方法）を行う。ファイルの統一化を条件に、他施設の見学を実施。全書類の運用ルール（保管方法、保管ファイル等）を定め、書類管理の見える化を実施する。

(2) 在庫管理

① 在庫管理アプリの導入

PJ 発足し、全在庫の現状把握（物品の洗い出し、在庫管理の作業時間、保管場所）を行い、在庫管理アプリ導入施設の見学・シミュレーションを実施する。備品の定数値を定め、アプリの導入を開始する。導入後は、検証と修正を2ヵ月実施し、評価後運用。

(3) 業務の再構築

I 全体

① 仕事量の見える化と職員配置の適正化

- ・マニュアルの、コア・サブ・コンティンジェントサービスに分類の明暗をはっきりさせつつ、マニュアルを運用する
- ・レーダーチャートを活用し、仕事の偏りを見える化する
- ・職員の定数の定義作り、適正配置の検討、配置換えの実施
- ・ICT 導入 WT 内 直接・間接介助検討チーム発足

II 特養・SS

① SS 受け入れ基準の浸透

- ② 相談員・事務業務についてルールの整備・リーダー配置の検討・決定のタイミングの明確化・事務の担当や仕事の範囲の定義・役職者と係の仕事の範疇との棲み分け
- ③ 栄養課価値判断基準・育成システム・働く仕組みの評価と再検討

III デイサービス

① 売りの強化と動きの型決め

- ・おとなの学校運用評価、アクアタイザー導入と動きの型決め
- ②運営体制の見直し
 - ・新入職員の育成と指示命令システムの再構築

IV く・る・る

- ①不足している仕事量へのアプローチ
 - ・A型・B型の仕事の創出
- ②運営体制の見直し
 - ・新入職員の育成と指示命令システムの再構築

(4)経営の健全化

- ①特養 SS
 - ・目標利用率 特養 96.0% (空室 10 日以内)
SS 77.0% (空室 72 日以内)
 - ・月間利用申込目標値 特養 3 件 SS 4 件
 - ・3 ヶ月 1 回訪問営業 (老健、地域包括ケア病院)
 - ・顧客リストへの FAX 営業によりリアルタイムの空室状況を共有
 - ・SS 緊急利用相談者の受け入れ
- ②就労継続支援
 - ・目標登録人数 A 型 (14 名)、B 型 (25 名)
 - ・法人での学校訪問、体験実習生の受け入れ
- ③デイサービス
 - ・目標利用率 85.0%
 - ・利用相談件数目標 月 5 件
 - ・居宅介護支援事業所への認知
居宅介護支援事業所へデイ活動 (おとなの学校等) のプレゼン活動、営業方法の評価修正
 - ・他事業所のデイ見学
- ④ケアプランセンター
 - ・目標純増数 毎月 2 件
 - ・地域ケア会議 (2 ヶ月 1 回)、事例検討会 (不定期)、居宅部会 (4 ヶ月 1 回)、研修会 (不定期) などの包括主催の研修に参加し、気づきを得る。二人の知識や相談援助技術を向上させる。

同時に包括との繋がりを継続していく。

- 集中減算に留意し、毎月経過確認。
- ケアプランの充実(研修会への参加)

3. 年間行事計画

月	行事
4月	お膳式
5月	花見
6月	セレクト会食
7月	夏祭り
8月	移動動物園
9月	敬老会
10月	鍋会食
11月	文化祭
12月	クリスマス会
1月	初詣
2月	節分
3月	ひなまつり

4. 委員会・プロジェクト活動

- (1) 事故・ヒヤリハット委員会 委員長：境 SL
- (2) 5S 委員会 委員長：坂本 L
- (3) 防災、感染予防委員会 委員長：林 L
- (4) 虐待、身体拘束防止委員会 委員長：新山 L
- (5) 褥瘡委員会 委員長：川村 L
- (6) 業務見直し委員会 委員長：小笠原 L
- (7) 研修委員会 委員長：鼻野木 SL
- (8) セルフチェック 委員長：新山 L

5. 研修・資格計画

〈研修〉

- (1) 現場研修
 - ① オンラインセミナー
- (2) サブリーダー、リーダー研修
- (3) 伝達研修

(4) 指名研修

〈法定研修〉

(1) 事故ヒヤリハット 年 2 回

(2) 身体拘束 年 2 回

(3) 虐待防止 年 2 回

(4) 感染予防 年 2 回

(5) 褥瘡予防 回数定めなし

(6) 感染症蔓延・災害時 BCP シュミレーション 年 2 回

〈その他の研修〉

(1) 認知症研修

(2) 倫理研修

月	法定研修	外部研修	サブリーダー研修
4 月	認知症研修	・ 認知症基礎研修ピックアップ ・ オンラインセミナー	
5 月	倫理研修	・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	
6 月	虐待、身体拘束委員会	・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	第 1 回
7 月	事故ヒヤリハット委員会	・ 認知症基礎研修ピックアップ ・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	
8 月	感染予防委員会	・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	第 2 回
9 月	感染 BCP シュミレーション	・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	
10 月	事故ヒヤリハット委員会	・ 認知症基礎研修ピックアップ ・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	第 3 回
11 月	感染予防委員会	・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	
12 月	虐待、身体拘束委員会	・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	第 4 回
1 月	褥瘡委員会	・ 認知症基礎研修ピックアップ ・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	
2 月	防災 BCP シュミレーション	・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	
3 月		・ 新入社員研修 ・ オンラインセミナー	第 5 回

〈資格〉

- (1) 介護職員実務者研修・介護福祉士
佐藤（純）係・伊藤係・（吉田 SL）
- (2) ユニットリーダー研修
境 SL
- (3) サービス管理責任者
高田係長

6. リスク管理計画

- (1) 消防訓練
 - ① 年 2 回（日中、夜間）
- (2) 災害避難訓練
 - ① 地震、風水害を想定した避難訓練の実施
- (3) 館内設備保守点検

7. 地域との連携

- (1) 体育館の修繕や今後の運用について検討を行い、方針を定める。
維持する限りは体育振興会と連携し、地域住民への開放を行う
- (2) 地域開放スペースは団体登録を行ったもみじ台の団体や福祉事業所へ貸し出しを行う。（平日 9 時～20 時）
- (3) 地域開放スペース、体育館は福祉避難場所としての機能を果たす。

「光生舎スクエア経営計画」

〈基本目的〉

1. 安心できる職場づくり
2. 選ばれるサービスの提供

〈基本方針〉

1. 安全かつ衛生的な働きやすい職場をつくる。
2. お客様・利用者のニーズに合ったサービスを提供する。
3. サービスに関わる人との情報共有を活発に行う。(営業・家族など)

〈キーワード〉

『 団結 ～みんなの力が必要さ～ 』

〈重点事項〉

1. サービスの安定と向上
2. 相互理解

〈具体的取り組み〉

1. サービスの安定と向上

(1) 支援力の向上

① 支援についての相談が気軽に出来る仕組み作り

- ・ プチケース会議（ちょっと気になる事から出してみる）
- ・ 各種会議で多職種交流を行い、積極的な意見交換を促す
- ・ 法人内他事業所や法人外他事業所との研修や交流会へ参加する

② 計画と実践の精度を高める

- ・ 個別支援計画、レーダーチャートの充実化
- ・ 各種会議の活用(計画内容把握、進捗確認、モニタリング)

(2) 利用率の向上

① 関係機関と連携し、利用者ニーズを把握する

- ・ 細やかな分析を行う(欠勤理由、特性理解など)
- ・ 学校訪問、説明会への積極的な参加

② 楽しみ・やりがいの発信

- ・ 様々な情報媒体を利用し、定期的な事業所情報を発信する
- ・ 施設行事を充実化し、利用者がより楽しんで事業所を利用できる取り組みを行う

(3) 利用者の能力開発・向上

① 支援の計画と実践の精度を高める

- ・ WT活動を行う。(職域拡大・作業習熟度向上)
- ・ 本人のニーズと工場の生産性のバランスを取る
- ・ 職業指導員と利用者の1 on 1での支援を行う

② 達成度の見える化

- ・ レーダーチャートをはじめ、目標に対しどの程度達成できているかを数値化し利用者に還元する。
(個別支援計画進捗確認会議)

③ クリーニング師取得に向けた取り組み

- ・ 勉強会の開催
- ・ 模擬試験の実施
- ・ 実技試験対策トレーニング

(4) 製品品質の安定

① 標準化マニュアルの整備

- ・ 隔月1担当者1マニュアル活動

② 事故、クレーム品の撲滅(受注比0.1%以下)

- ・ 誤送、遅れ品の抑制
- ・ 不明品、未納品の撲滅
- ・ 製品品質の日次チェックの実施

- ・ 原材料、機械の適正使用チェック体制の確立

2. 相互理解

(1) 声を聴く活動

- ① 1on1MT : 隔週(職員)職種・年齢に関わらず実践する
- ② スタッフ面談 : 半期(契約社員・パート)
- ③ 項目別『困りごとBOX』の設置(全対象)
 - ・ 人間関係、作業関係、機械の不調、道具の不足、その他等、主となる項目を提示し情報収集を促進する

(2) 情報の共有

- ① 役割の見える化 : 役割・強み・弱みの理解(職員)
 - ・ 自己認識と他者認識を区別して考えられるようにする
 - ・ 自分の出来ていることだけにフォーカスしてストレスを感じることを軽減を図る
 - ・ 他者への敬意を持つことの意識を高める

(3) 相手に興味を持てる取り組み

- ① パワーランチや少数編成のチームでのグループワーク等を実施する
 - ・ ゲームなどのコミュニケーションツールを使用する

(4) 相互理解のズレを解消する取り組み

- ① 各セクション毎に部門 MT を定期開催する

〈研修計画〉

実施月		研修テーマ	その他
4月	10月	福祉の基礎1	英語
5月	11月	福祉の基礎2	エクセル
6月	12月	工場の基礎	ワード
7月	1月	接遇	呼吸法
8月	2月	自己肯定感、承認力	手話
9月	3月	傾聴力と訊く力	

※10月以降は前半の進捗と浸透具合を確認しながら、順番を入れ替えて実施する。

※その他はアイスブレイク的な要素で、講師役が自由に選択して実施する。

〈行事計画〉

実施月	行事名	予算	備考
9月	選択制日帰り旅行	400千円	
12月	クリスマス会	315千円	
2月	祭り	225千円	
該当月	誕生者会食	225千円	

「グループホームピノ経営計画」

〈基本目的〉

利用者が自立した社会生活を送るための支援を行う

〈基本方針〉

1. 共同生活と個人生活の折り合いをつけ、居心地の良い場所とする
2. 共同生活を通して、社会ルールを学べるようにする
3. 個別性を尊重する
4. 利用者が自分でできることを、1 つでも多くする

〈キーワード〉

『豊沃』

〈重点事項〉

1. 個々のペースを尊重しつつ、アットホームな環境を作る
2. 利用者増に向けた取り組み
3. 職員の連携強化

〈具体的取組〉

1. 個々のペースを尊重しつつ、アットホームな環境を作る。
 - (1) 嗜好調査を行い、利用者希望に沿う料理を提供する。
 - (2) 行事の充実を図り、利用者との信頼関係を構築する。
利用者同士の交流の場を提供する。
2. 利用者増に向けた取り組み
 - (1) 定期的に関係機関へ情報を発信する。
 - (2) 関係機関との情報共有を密に行い連携を図る。
 - (3) 訪問による営業活動を行う。
 - (4) 関係機関ならびに利用者へのニーズ調査を行い、求められるサービス提供に繋げる。
3. 職員の連携強化
 - (1) 日々の申し送りで利用者の変化を共有するとともに
スタッフ同士の变化にも気を配り、互いに声がけする。
 - (2) 情報共有と円滑な運営をするためにスタッフミーティング

- を1か月に1回開催する。(管理者、サビ管、相談員、世話人)
- (3) 日中活動を行う就労場所との連携を密に行い、GHとバックアップ施設が一体的に利用者の日中活動をサポートする。

4. 日常生活での取り組み

(1) 健康管理

① 日々の様子を見守り体調管理に留意するとともに、必要に応じて、医療機関への通院同行をするなど可能な範囲でサポートする。

② インフルエンザ、感染性胃腸炎などの感染症の防止に努める。

(2) 苦情解決

① 利用者、保護者から苦情があった場合は、誠実に速やかに対処するように努めるとともに、利用者本位のサービスが提供できる体制を確保する。

② 法人が設置する第三者委員会の聴き取り調査に協力し、利用者の生活の質の向上に努める。

(3) 防災対策

① バックアップ施設の防災委員と連携し、年2回防災訓練を行う。

② 火災や地震災害の他、電気・水道・通信が停止した場合は管理者とバックアップ施設が協力し、利用者の安全確保に努める。

〈行事・研修・管理計画〉

月	行 事	研 修	管 理	備 考
4		中途採用者用動画		
5	リクエストメニュー			
6			避難訓練	
7				
8	焼き肉パーティー			
9	秋の味覚会食			
10			風水害避難訓練	
11	おでん会食		インフルエンザ予防接種	
12				
1		虐待防止研修	健康診断	
2	デザートの日	普通救急救命講習	避難訓練	
3				

「そだんのていく札幌エリア、企画室KITE経営計画」

〈基本目的〉

1. 利用児者と家族の幸せな生活を支える
2. 地域に頼られる事業所となる

〈基本方針〉

1. 利用児者と家族に温かい心で接し支援する
2. 地域貢献活動を積極的に行う

〈キーワード〉

『 UP TO YOU 』

〈重点事項〉

1. 資源の把握・開拓・伝播
2. ケイパビリティ(潜在能力)の向上・発揮

〈重点事項の活動計画〉

1. 資源の把握・開拓・伝播

〈相談〉

- (1) 札幌市の社会資源の把握(法人内含む)
- (2) 福祉サービスの理解(見学等)

〈研修〉

- (1) 様々な研修題材の収集
- (2) 伝え方(伝播方法)の確立

2. ケイパビリティ(潜在能力)の向上・発揮

〈相談〉

- (1) 利用者本人が自分らしさを自覚できる面談技術の習得
- (2) 本人の意向を的確に表した計画の作成

〈研修〉

- (1) ウェルビーイングの考えに即した研修の作成
- (2) 研修の実施、検証

〈健康診断等計画〉

実施月	内 容
11月	インフルエンザ予防接種
1月	健康診断